

## 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取東高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成30年1月15日
------	---------	-----	------------

1 学校目標
<p>さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分の将来をはっきりと思い描き、その目標に向かって努力する主体性を育成する</li> <li>2 社会のどこかを支える人間、一隅を照らす人に育てる</li> <li>3 他者を思いやる優しさ(親和)、困難に立ち向かう逞しさ(克己)、探究しようとする積極性(進取)を育成する</li> </ol>
2 重点項目に係る目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢が語れ、高い志を持って自己の将来像を設計し、実現に向けて主体的に努力する力を育成する。</li> <li>・大学入試センター試験や二次試験の研究と対策を進め、生徒の実態や教育課程に対応した学習指導の充実を図る。</li> <li>・全国模試で校内平均点偏差値が、1・2年生は55を、3年生は50を上回る（現状は、それぞれ2～3ポイント下回っている）。</li> <li>・国公立大学の現役合格者140人（現状110人前後）うち難関大学・医学部合格者10人（現状5人前後）をめざす。</li> </ul>
3 事業計画（事業名、事業概要）
<p><b>【高等学校課事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県版キャリア教育推進事業 「ようこそ高校へ」版キャリア塾 各学年の生徒に対して、進路意識やキャリア意識を高めるため大学などの外部講師を招いて講演をいただく。</li> </ul> <p><b>【独自事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導力向上事業 難関大学などへ向かう生徒指導のため、県外予備校への研修や先進校視察などを行う。</li> <li>・鳥取学推進事業 進路意識を高め、明確にするために1年次では鳥取を題材にして研究・訪問し、2年次では講演会を行う。</li> <li>・学部・学科別講演会 2年生を対象に、近隣大学より学部・学科別に講師を招き講演していただく。</li> <li>・保護者進路講演会 保護者を対象に、県外予備校講師などから入試動向など最新の情報を講演していただく。</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年にClassi（ベネッセ）を導入することで、習熟度に合わせた家庭学習の促進、家庭学習状況（学習履歴）の把握をするとともに、ポートフォリオの蓄積を進めていく。</li> </ul>

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取東高等学校

重点項目	英語教育重点校	提出日	平成30年1月15日
------	---------	-----	------------

## 1 学校目標

さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める

- 1 自分の将来をはっきりと思い描き、その目標に向かって努力する主体性を育成する
- 2 社会のどこかを支える人間、一隅を照らす人に育てる
- 3 他者を思いやる優しさ(親和)、困難に立ち向かう逞しさ(克己)、探究しようとする積極性(進取)を育成する

## 2 重点項目に係る目標

今後の大学入試で求められる、スピーキングとライティングを中心とした英語のコミュニケーション力を高め、生徒の情報伝達力、英語の学力全般の向上を図る。特にスピーキング力の向上に重点を置き、授業内外でのスピーキング活動の促進と効果的な評価方法について、組織的に研究・実践を行うことを目標とする。

GTEC(スピーキングを含む)で以下の数値を目標とする。現在の人数は GTEC for STUDENTS の結果を基にしているため、スピーキングの点数は含まれていない。

	1年生 12月	2年生 12月	3年生 9月
GTEC 690 以上【CEFR A2、英検準2】 (現在の人数：旧 GTEC 410 以上)	180人 (160人)	230人 (220人)	280人 (250人)
GTEC 820 以上 (現在の人数：旧 GTEC490 以上)	90人 (70人)	100人 (80人)	120人 (100人)
GTEC 960 以上【CEFR B1、英検2級】 (現在の人数：旧 GTEC570 以上)	10人 (7人)	25人 (10人)	50人 (30人)

## 3 事業計画 (事業名、事業概要)

### 【高等学校課事業 21世紀型能力を育むための講師派遣事業】

「4技能と思考力育成のための英語ディベートの活用と評価」を取組のテーマとし、効果的な実践方法と評価の在り方について研究する。主体的・対話的で深い学びを可能にする英語ディベートを継続的に授業に取り入れることで、生徒の思考力、英語での表現力が培われ、社会的課題などへの関心が高まる効果が期待できる。また校内ディベートキャンプや全国大会への参加などを通して、英語ディベートで他の生徒を牽引することのできるリーダーを育成し、学校全体のディベート力向上を目指す。

(1)ディベートを取り入れた英語授業の研究を行い、職員研修会を行う。

(2)希望生徒対象の「ディベートキャンプ」を開催する。

### 【独自事業 英語力養成事業】

教員の英語教育研究大会等への参加、チームティーチングで行う授業を充実させるための外部講師(英語のネイティブスピーカー等)の招聘、英検等新テストへの対応

【その他】Classi(ベネッセ)を導入し、授業外でのライティング、スピーキング活動の充実と評価、表現活動のポートフォリオとして活用する。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取西高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成30年2月2日
------	---------	-----	-----------

1 学校目標
「深い学び」「幅広い学び」による高い進路目標の実現 ～探究的な学びの充実と高大接続改革への対応～
2 重点項目に係る目標
1 学校目標達成のための平成30年度重点目標 ○高大接続改革に対応した高い進路目標を実現するための施策の充実 ○学問の奥深さに触れる探究的な授業の研究・実践 ○幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を涵養する取組の充実 ○知的総合力をそなえた鳥西グローバル・リーダーの育成 ＜数値目標＞ ○大学合格者数 国公立大学230名、難関10大学・医学科60名（学年生徒数280名） （平成28年度実績 国公立大学224名、難関10大学・医学科45名（学年生徒数320名）） ○国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合50% （国際化に重点を置く大学：文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」に採択された大学：東京大学、京都大学、大阪大学、広島大学、岡山大学、鳥取大学など） ○卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合15% （平成29年度実績CEFRのB1～B2レベル：22名（学年生徒数320名）6.9パーセント）
3 事業計画（事業名、事業概要）
【高等学校課事業】 ○21世紀型能力を育むための講師派遣事業 ①協同的・探究的な学習をテーマにした校内授業研究会 SGH（スーパーグローバルハイスクール）事業の充実に向け、昨年度の中間評価で浮かび上がった課題として、生徒の探究活動の深化、その評価方法の改善に努める。 ②英語ディベート活動に関する教職員研修会 高大接続改革に対応するため、生徒が英語をツールとして議論や交渉をできる能力を養成するよう努める。合わせて、新テストで必要とされる英語検定試験、スピーキングテストに対応できる能力を育てる。 ○鳥取県版キャリア教育推進事業 ①進路講演会「先輩に聞く」、「大学生に聞く」の開催 高大接続改革に対応するため、特に難関大学への進学に向けて努力する動機付けをするとともに、職業人として広く社会で活躍している姿を見ることによって、生徒個々のキャリアデザインを構想することにつなげていく。

## 【独自事業】

### 特徴的な取り組み

#### ①教科における探究的な授業の研究

協同的な手法を取り入れた授業展開が定着してきたが、さらに思考力や表現力を高めるための探究的な授業の研究を推進する。高大接続改革による大学の個別選抜への対応も進める。

#### ②CLIL的アプローチ授業の推進

英語と他教科の内容と統合することで実践的かつ高度な英語活用能力を育成する。高大接続改革に対応した実用的な英語指導の充実を図る。

#### ③キャリア学習の推進

- ・キャリアセミナー・・・高大接続改革に対応するため学年別進路講演会（生徒・保護者希望者対象）を開催し、学校と家庭の連携を強化する。
- ・ハイレベルセミナー・・・大学の研究者・大学院生等を招き、学問の魅力や研究の最前線を学ぶ。学問の奥深さに触れることで、生徒の高い志を育む。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取商業高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成30年1月16日
------	-----------	-----	------------

## 1 学校目標

地域の産業経済界をリードし、活躍する人物を育成する

※詳細は別紙「鳥商教育のめざす姿」を参照

## 2 重点項目に係る目標

- (1) 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける。
- (2) 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する。
- (3) ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける

### <数値目標>

#### (1) 就職内定率、進学合格率ともに100%を継続

－就職先は県内東部地区企業、事業所が95%以上。金融機関等本校指定の求人も数多くある。進学について、習得した専門知識をより深め実社会で役立てようと毎年国公立大学、難関・有名私立大学の経済、経営系学部・学科に複数が進学している。またビジネス教育で培ったコミュニケーション力を活かして医療・看護系、幼児教育系学校への進学者も多数ある。

#### (2) 全商検定1級3種目以上取得者55%以上（3年卒業時）

※平成24年度37%から徐々に上昇し平成28年度は53%に到達。  
－全商（全国商業高等学校協会）が主催する検定試験（簿記、会計、情報、英語、ビジネス文書など全9種目）の1級取得に向けた学習の成果指標。検定合格にあたっては各専門領域の知識だけでなく文章読解力、思考力、計算力、語学力など普通教科の学習で習得する力も要求される。

#### (3) 鳥商デパート売上げ1,200万円以上、来場者数10,000人以上

－鳥商デパートは生徒自身が企画、仕入れ、販売、決算のすべてを行う鳥商教育の集大成としての位置付け。学校祭で楽しむ模擬店ではなくビジネスとしての販売活動であり平成30年には第25回を迎える。地域の皆様からの信頼と信用がなければ目標を達成することは不可能であり鳥商教育全体が問われる事業と考えている。運営主体は3年生であるが1,2年生も販売補助、環境整備、案内、駐車誘導などによりまごころをもってお客様をお迎えする全校挙げての事業。また近隣保育所園児による演技披露、湖山西小学校5年生との共同出店、近隣中学校生徒（希望者）の販売体験活動も実施している。

### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【高等学校課事業】

事業名：未来を拓く学力向上事業（チャレンジサポート）

事業概要：

#### 1 鳥取県商業教育フォーラム

- (1) 実施時期：7月上旬
- (2) 対象：全校生徒及び県外商業高等学校3校の代表生徒
- (3) 目的：①全国の商業高等学校に学ぶ生徒との交流をとおして、それぞれの学校の特色や商業教育に対する思いを共有し、商業高校生としての自信と誇りを持たせるとともに、相互研鑽に資する姿勢を身に付ける。  
②発表やシンポジウムをとおして生徒のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。
- (4) 内容：本校及び県外商業高等学校3校の代表生徒による各校学校紹介、特色ある取組の発表と商業教育に関するシンポジウムを行う。県外からは商業教育（検定・資格取得、就職・進学実績など）及び体育、文化活動等において全国上位の成果、成績を上げている商業高等学校を招く。昨年度は群馬県立高崎商業高等学校、岐阜県立岐阜商業高等学校、岡山県立倉敷商業高等学校の3校を招いた。

#### 【独自事業】

事業名：商業教育推進事業

事業概要：

#### 1 1年ビジネス基礎研修

- (1) 実施時期：4月上旬
- (2) 対象：1年生全員
- (3) 目的：本校で学ぶ目的や商業教育への理解を深め、2年次よりの類型選択（商業・会計・情報・デザイン）をとおして3年間を見通した学習計画や進路設計を行う動機づけとする。また高校卒業後の社会生活を送る上で当事者としての意識を高め、社会人としてまた企業人として要求されるビジネスマナー、礼法を習得する。
- (4) 内容：①商業学科主任による商業科の学習内容紹介及び類型説明。  
②外部講師によるビジネスマナー、礼法についての講演と実技指導。

#### 2 1年ビジネス体験実習

- (1) 実施時期：10月上旬の3日間
- (2) 対象：1年生全員
- (3) 目的：①ビジネス基礎研修及びビジネス基礎の授業で学んだ知識や習得したビジネスマナー、接客の基本を企業、事業所で活用、実践しさらに向上させ

る。

②この体験実習をとおして今後学ぶべき点を振り返り、「鳥商デパート」の企画・運営に必要な基礎力を身につける。

③社会や職場の実態を理解し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、主体的に行動する態度を養う。

(4) 内容：鳥取県東部地区の企業、事業所約70箇所における3日間にわたるインターシップ。単なる職業体験ではなく各実習先で即戦力として活躍することを生徒に求めている。学びを社会と関わる体験活動で実践、応用することでより定着させ深める鳥商教育の中心事業のひとつ。外部講師を招聘しての礼法、接遇指導も事前に行う。

### 3 2年研修旅行

(1) 実施時期：10月上旬の3日間

(2) 対象：2年生全員

(3) 目的：①産業界やビジネスの世界を実際に見聞し、鳥商で学んだ「生産、流通、販売」の一連の知識と体験を結びつける。  
②研修を機会に自身の職業観・勤労観を見直し、自己のキャリアプログラムを具体的に構想できるようにする。  
③現在の進路志望が自身の適切な選択であるか振り返るとともに、実現するには今後何が必要かを考える機会とする。

(4) 内容：東京都内のビジネス現場（上場企業他）と各種上級学校を訪問し研修する。訪問先企業は日本有数の企業等とし、最先端の施設の見学やビジネスの最前線が体験できるようにしている。また各種上級学校は生徒の志望に沿って選択し決定する。これまでの訪問先企業としてはヤマトホールディングス、ローソン、ディー・エヌ・エー、博報堂、ピクシブ、コロプラ、東急モールズ109事業部、商船三井、リッツカールトン東京などがある。

### 4 鳥商デパート（鳥商教育の集大成）

(1) 実施時期：12月第1土曜日・日曜日

(2) 対象：全学年生徒（運営主体は3年生全員）

(3) 目的：①3年間を通じた一連の学習成果を発表する機会を創出する。  
②売上を増やすための方策について生徒同士が意見を交換し、アイデアを出しあい協力することにより企画力・実行力・協調性を養う。  
③県民に広く本校の活動や学習内容、生徒の成長を認知してもらう。  
④県内高校はもとより全国の商業高校との連携を進めるほか、保育所や小学校等との校種間連携も行う。

(4) 内容：本校施設（大体育館、小体育館、屋外施設）を会場に青果、精肉、鮮魚、乾物、学校特産品、ベーカリー、和洋菓子など20の店舗を設営し、企画、

仕入れ、販売、決算の一連の販売活動全てを生徒が行う鳥商教育の集大成。幅広い年齢層からの来場を目指し、各種ステージイベントの企画、SNSを介しての広報活動、シャトルバスの運行なども生徒経営委員会が企画し実行する。運営主体は3年生だが、1、2年生も来場されるお客様に気持ちよく買い物していただけるよう販売補助、環境整備、案内、駐車誘導などの裏方としてデパートを支えている。

## 5 企業とのコラボによる商品開発（地元企業との連携）

(1) 実施時期：通年

(2) 対象：商業経済研究部

(3) 目的：①地域や企業との連携を図り、生徒の主體的な企画推進や活動創成をとおりして探究心、創造力、実践力を育成する。  
②学校の取り組みを地域社会に情報発信し、学校及び地域の活性化を担う。  
③地域とともに歩む地域共生プロジェクトとして位置づけ、未来に向けた学びとして、生徒の人的成長につなげる。

(4) 内容：①菌蕈研究所、菌興椎茸協同組合等と連携しながら県産原木しいたけを素材としたレシピの開発。

②「きのこ王国鳥取県」の広報・普及活動を地域や生産者と連携しながら進める。

③地産地消の推進を図るとともに、企業とのコラボレーション（協働）により、しいたけや地元の素材を第一に、県産野菜を使った新商品の開発や弁当作りを行う。

④各種イベントや大会、鳥商デパート等に向けての企画立案や販売活動を行う。

※主な開発商品：しいたけバーガー、原木しいたけ丼、原木しいたけカレー、しいたけ弁当、しいたけうどん、炊き込みご飯、スープ



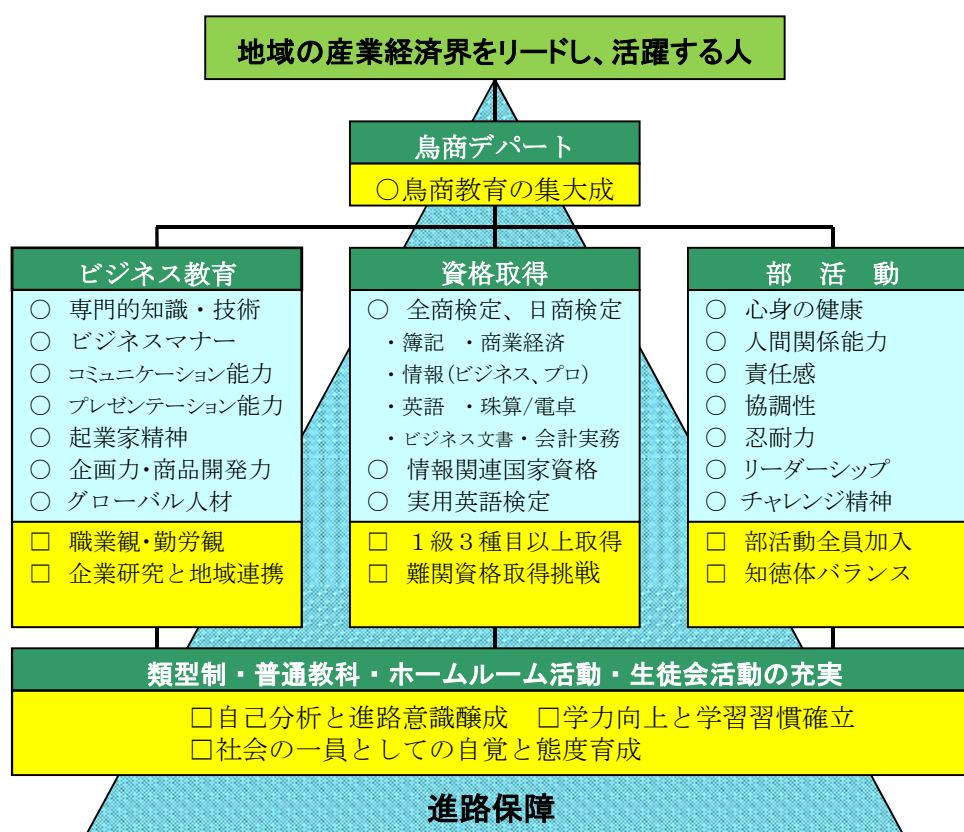
# 鳥商教育のめざす姿

## 1 めざす人物像・・・地域の産業経済界をリードし、活躍する人

(職場の人に信頼され、情熱を持って仕事に励む人)

- ① 何事にも前向きに考え、嫌なことでも、みんなのため、自分の成長のためと考え実践する人
- ② 周りの人への配慮ができ、自分の考えをはっきり述べるが、他人の意見も尊重し、決まった目標に向かって協力ができる人
- ③ 現状を当たり前と思わず、リーダーシップを発揮して、より良くするための計画やアイデアを提案し、実行できる人

## 2 鳥商教育のイメージ図



## 3 3年間で身につけたいもの

### (1) 第1学年

- ① 笑顔の挨拶、正しい制服の着こなし、丁寧な言葉遣い
- ② 自己表現力(話す力、聴く力、書く力、読む力)
- ③ 人や社会のために働く力

### (2) 第2学年

- ① お客様や外来者に「まごころ」をもって接する力
- ② ビジネスマナー、周りの人への配慮や気配りができる力
- ③ 起業家精神(企業理念)、コミュニケーション能力、

### (3) 第3学年

- ① 誠実で責任ある言動(信頼・信用される人)
- ② ビジネス実践力(即戦力として必要な力や心構え)
- ③ チャレンジ精神(企画する力、商品開発力、起業する力)

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取工業高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成30年2月6日
------	-----------	-----	-----------

1 学校目標
『地域を支える人財（材）、技術者の育成』 技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。
2 重点項目に係る目標
(1) 学力の向上 ア 授業改革と学力の向上 イ 主体的な学習態度と実践力の向上 (2) 豊かな人間性の育成 ア 互いを尊重する態度と社会性の涵養 イ 健全な心身と社会貢献精神の育成 (3) キャリア教育の充実と進路実現 ア 専門的な知識・技術の習得 イ 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底 ウ 地域や産業界との連携強化 <数値目標> (1) 基礎力診断テストにおいて国公立大学への進学を視野に入れることができるBゾーン以上の学力層にある工業学科生徒割合20%以上（現状：平成29年12月現在…11%） (2) 就職内定率100%（公務員を含めた第一希望先就職内定率90%以上） （現状：平成30年1月末現在…就職内定率98%、第一希望先就職内定率88%） (3) 単年度資格取得数一人一資格以上（現状：平成30年1月末現在…0.55資格/人） (4) ジュニアマイスター顕彰（複数の難度の高い資格取得者を顕彰するもの）者10名以上 （現状：平成30年1月現在…6名）

### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【高等学校課事業】

- ・ 21世紀型能力を育むための講師派遣事業  
本校職員による研究授業を全員で参観し、協議・意見交換を行って課題を共有したのち、講師による講義を聴講し、理解を深める。
- ・ 外部人財活用事業（県立高校・大学教員の教員交流事業）【鳥取大学】  
制御・情報科の生徒が大学の先生からマイコンカーラリー等のロボット製作及び制御プログラミングの開発と改良について、直接学ぶ。
- ・ 外部人財活用事業（社会人講師活用事業）  
社会人講師と教職員のティームティーチングによる授業で行い、三相誘導電動機の正・逆転回路、インターロック回路の知識と技能を習得させる。
- ・ 鳥取県版キャリア教育推進事業（1年生）  
1年生の進路LHRで「さまざまな働き方、暮らし方」をテーマとして地元企業の方をお招きして、地元企業の理解とその魅力について考え、自身の進路設計の一助とする。
- ・ 鳥取県版キャリア教育推進事業（2年生） 先輩を囲む会  
各学科の卒業生を招き、各企業や進路先に関わる話を聞くことで、「働くこと」や「学ぶこと」の意義について考え、翌年度の進路目標に向けた行動計画を考える参考とする。
- ・ 鳥取県版キャリア教育推進事業（3年生） 社会人としての基礎教養講座  
社会保険労務士会、鳥取県労働者福祉協議会等から派遣の講師の講義により、就職・進学後に必要なビジネスマナーや社会常識等を習得し、社会の一員としての自覚を深め、卒業後の環境変化にスムーズに対応する力を身につける。
- ・ 鳥取県版キャリア教育推進事業（1・2年生） 分野別進路ガイダンス  
鳥取テクノヒルズ会員企業を中心に、地元産業界及び上級学校から派遣の講師の講演により、生徒及び保護者が各業種別の内容や実態、諸学問の分野別の内容を知り、進路について考える機会とする。
- ・ 学校連携チャレンジサポート事業  
鳥取湖陵、鳥取商業、智頭農林と連携して、専門高校の教育内容を発信。各校の生徒が直接に地域住民や小中学生に各校の専門性をアピールすることにより、地域の産業やものづくりの大切さを伝える機会とする。

#### 【独自事業】

##### （1）授業改革・学力向上事業

- ・ 教員授業力向上研修

普通教科教員は予備校セミナーに、工業科教員は各種研修会・講習会に参加することで、最新の技術や実践方法、情報を取得する。

##### （2）豊かな心育成事業

- ・ テクノボランティア

近隣の高齢者住宅や社会福祉施設等を訪問して、電気製品等の簡易な修理や清掃等を行う

ことで、自己肯定感を高め、地域社会の一員としての自覚を深めることができる。

- ・生徒活動活性化事業

生徒会執行部を中心に、先進校視察やリーダー研修を行い、生徒会活動を企画・実践していくことで、リーダー性や主体性を育むことができる。

(3) ものづくり技術育成事業

- ・課題研究充実事業

課題研究発表会やそれに向けた1年間の目標・計画設定や制作等を通じて、専門的な知識と技術の深化・統合を図るとともに、鳥工版デュアルシステムで、より実践的な職業知識と技術・技能を習得する。

- ・資格取得促進事業

社会人講師等の指導を受けながら資格取得にチャレンジすることで、日頃の学習成果の定着を図るとともに、より専門的な知識・技能の習得を果たす。また、就職・進学ともに進路選択の幅が広がる。

- ・創造的技術育成事業

マイコンカーやエコデッカー等の競技大会に参加することで、実習で学習した技術を応用し、工業の総合的な力を付けることができる。

- ・ものづくり技術育成事業

「高校生ものづくりコンテスト全国大会」及びその予選に参加することで、製造業を支える技術者・技能者への成長を促し、より高度な検定受検・資格取得の動機付けとする。

(4) キャリア教育推進事業

- ・インターンシップ

工業の学習内容が現場でどう活かされ、応用されているのかを体感し、職業観・勤労観を育み、進路選択の一助とする。また、実社会で必要な知識やマナーを身に付ける。

- ・ものづくり講演会

優れた技術者・職人の講演を聴くことで職業観・勤労観を育むとともに、ものづくりの楽しさや素晴らしさを再認識して、学習意欲をさらに高める。

- ・進路指導支援事業

就職・進学実績の多い県外企業及び大学を訪問し、卒業生の様子を把握し、進路先と情報交換することで、生徒の定着指導及び進路指導の充実を図る。

(5) 地域連携推進事業

- ・鳥工テック

実習棟や体育館等で各科の日頃の学習成果を地域の小・中学生や一般の方々が参観、体験することで、生徒は企画・実践・表現する力を高めることができ、地域には本校や工業についての理解を深め、興味関心を高めてもらうことができる。

- ・中学生体験入学

中学生が本校の工業各科の学びや部活動を参観・体験することで、本校の魅力や「ものづくり」の楽しさを体感し、本校への進学が魅力的な選択肢であることを理解してもらう。

・「工業っていいかも！」事業

本校生徒・教員が近隣の中学校を訪問して、本校での高校生活を生の声で届けたり、本校教員が中学校に出向いて技術・家庭科や理科の関連分野の授業を行って学習支援することで、本校や工業についての理解を深めてもらうことを通じて、地域の人材育成に資する。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	I C T活用教育重点校	提出日	平成30年1月29日
------	--------------	-----	------------

1 学校目標
<p><b>[1]教育方針</b></p> <p>自立：自己の向上に努め、たくましく社会を生きぬく力を育成する          協同：お互いを思いやり、共に行動できる豊かな人間性を育成する          創造：実践をとおして、新たな価値を創造できる力を育成する          実践的な教育をとおして、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自主性・自立性を養い、社会人としての素養を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p><b>[2]教育目標</b></p> <p><b>「多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</b></p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てる。          ②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。          ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。          ④キャリア教育の充実により人生を生き抜く力を身につけ進路の実現を図る。          ⑤生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>
2 重点項目に係る目標
<p><b>目標達成のための平成30年度重点目標</b></p> <p>教育活動全体をとおして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。</p> <p>(1) 専門力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科の専門領域の基礎基本を身につけさせる教育を推進する。</li> <li>基礎基本を応用した技術や高度な内容に関する調査・研究などに挑戦する。</li> <li>学びの成果を活かし、資格・検定取得に積極的に取り組む。</li> <li>農業学科では農業生産工程管理（G A P）の平成31年度認証を目指すとともに、H A C C Pの取得に向かって調査・研究を進める。</li> <li>5 Sを推進することで、職業人としての態度や姿勢を培い、実践力を身につける。</li> <li>これらの取組を通して地域の産業を担う専門人材を育成する。</li> </ul> <p>(2) 新たな学び方の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><u>協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学び方を積極的に実践する。</u></li> <li><u>I C Tの活用を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。</u></li> <li><u>専門教科と普通教科の連携等の工夫を行い、学力の向上を目指す。</u></li> <li>生徒の仲間とともに「学ぶ喜び」「学ぶ責任」があることの意識を高める。</li> </ul> <p>(3) 社会に開く学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や産業界と連携を進め、学校での学びを社会で生かす能力の基礎を育てる。</li> <li>地域に本校の教育資源を提供し、産業界や地域の教育力を本校に導入することで、生徒の専門力を高める。</li> <li><u>異世代や障がいのある方との交流体験を通し、人権を尊重し、共に育つ共育を推進し、共生の心や自他を尊重する気持ちを育む。</u></li> </ul> <p>(4) 人生を生き抜く力の育成</p>

- ・基礎学力の向上も含めキャリア教育を充実する。
- ・インターシップやスーパー農林水産業士等の長期就業体験などの取組を通して、鳥取県の産業を担う人材を育て地域に貢献する。

(5) 規範意識を育て安全・安心な学校をつくる

- ・高校生として、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開くことができる意欲と素直さを身につけさせる。
- ・生徒の心情を十分に理解し、特別な支援が必要な生徒などにも十分に配慮を行う。
- ・教職員が方向を一つにし、保護者や地域と連携しながら明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。

<数値目標>

- iPadを使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになった生徒の割合  
(学校全体、学校評価アンケートより H29 56.2%) …… 60%以上
- 交流学习を通して、自ら進んでコミュニケーションが取れるようになった生徒の割合  
(情報科学科、情報科学科アンケートより H29 88.3%) …… 85%以上
- iPad(タブレット型端末)を活用して授業を実施した教員の割合  
(教職員、県活用状況調査より、H29 66.6%) …… 75%以上

3 事業計画 (事業名、事業概要)

【高等学校課事業】

(1) 外部人材活用事業

情報科学科のデザイン・プログラミング等の学習において専門の講師から知識や技術を学ぶことができる。また、「食のみやことっとり」では販売促進用ノベルティグッズの提案等を行い、地域イベントに連携する。

(2) ICT学びの充実プロジェクト

学習支援クラウドサービス「Classi」を導入(情報科学科の生徒全員。一人一台所有しているiPadにアカウントを付与)するとともに、教員用iPad(5台)を導入し、継続的に生徒とのやりとり等で利用することにより、以下の2点について成果を検証する。

- ①生徒の学習時間の増加、学力向上 ②教員の授業改善(授業の効率化を含む)

【独自事業】

(1) 新たな学び方の創造

ア. ICT教育の推進

- ①BYOD(Bring Your Own Device)の実行と検証(情報科学科iPad)

本校情報科学科では、生徒個人がiPadを入学時に購入し、授業等で活用しており、県内では先進的な学習活動を展開している。新学習指導要領では、学習におけるICTの効果的な活用が求められており、校内でのICT教育をさらに推進するため、設備面の充実やソフトウェアの活用を積極的に行う。本校での実践をとおして本県のICT教育の発展、情報発信に努めたい。

また、特別支援学校・小学校との交流を通して、生徒のコミュニケーション能力、人間関係力を高め、各校との連携のもと有効なiPadの推進に取り組む。

イ. ICTアクティブラーニングの推進

本校では平成27年度から全科共用のiPadが導入され、ICTを活用した授業改善に全職員で取り組んでいるところである。協同して学ぶ力や主体的に学ぶ力、言語活動能力の充実を目指している。アクティブラーニングや協同学習を推進するための研修や研究会、成果発表会等をとおしてその深化を図る。

【その他】

情報科学科では、学習支援ソフト(Classi)を活用した学習を実施している。普通教科を中心に授業での利用や家庭学習の習慣化を目標にその円滑な活用方法を検討中である。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取湖陵高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成30年1月29日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標	
<p><b>[1]教育方針</b></p> <p>自立：自己の向上に努め、たくましく社会を生きぬく力を育成する          協同：お互いを思いやり、共に行動できる豊かな人間性を育成する          創造：実践をとおして、新たな価値を創造できる力を育成する          実践的な教育をとおして、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自主性・自立性を養い、社会人としての素養を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p><b>[2]教育目標</b></p> <p><b>「多面的な取組で専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</b></p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育てる。          ②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。          ③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。          ④キャリア教育の充実により人生を生き抜く力を身につけ進路の実現を図る。          ⑤生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	
2 重点項目に係る目標	
<p><b>目標達成のための平成30年度重点目標</b></p> <p>教育活動全体をとおして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。</p> <p>(1) 専門力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科の専門領域の基礎基本を身につけさせる教育を推進する。</li> <li>・<u>基礎基本を応用した技術や高度な内容に関する調査・研究などに挑戦する。</u></li> <li>・<u>学びの成果を活かし、資格・検定取得に積極的に取り組む。</u></li> <li>・<u>農業学科では農業生産工程管理（GAP）の平成31年度認証を目指すとともに、HACCPの取得に向かって調査・研究を進める。</u></li> <li>・<u>5Sを推進することで、職業人としての態度や姿勢を培い、実践力を身につける。</u></li> <li>・<u>これらの取組を通して地域の産業を担う専門人材を育成する。</u></li> </ul> <p>(2) 新たな学び方の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学び方を積極的に実践する。</li> <li>・ICTの活用を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。</li> <li>・専門教科と普通教科の連携等の工夫を行い、学力の向上を目指す。</li> <li>・生徒の仲間とともに「学ぶ喜び」「学ぶ責任」があることの意識を高める。</li> </ul> <p>(3) 社会に開く学びの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>地域や産業界と連携を進め、学校での学びを社会で生かす能力の基礎を育てる。</u></li> <li>・<u>地域に本校の教育資源を提供し、産業界や地域の教育力を本校に導入することで、生徒の専門力を高める。</u></li> <li>・<u>異世代や障がいのある方との交流体験を通し、人権を尊重し、共に育つ共育を推進し、共生の心や自他を尊重する気持ちを育む。</u></li> </ul> <p>(4) 人生を生き抜く力の育成</p>	



- ・基礎学力の向上も含めキャリア教育を充実する。
- ・インターシップやスーパー農林水産業士等の長期就業体験などの取組を通して、鳥取県の産業を担う人材を育て地域に貢献する。

(5) 規範意識を育て安全・安心な学校をつくる

- ・高校生として、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開くことができる意欲と素直さを身につけさせる。
- ・生徒の心情を十分に理解し、特別な支援が必要な生徒などにも十分に配慮を行う。
- ・教職員が方向を一つにし、保護者や地域と連携しながら明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。

<数値目標>

○取得資格の目安・・・資格取得・検定数（卒業までに3個以上）

○ベーシックを基礎として、計画的に継続的に資格取得や検定合格に臨む。各学科、コースによって行って受験できる資格数が異なるが、1年から2年時の取得を目指す。

・・・概ね受験者の80%以上の合格を目標とする。

○アドバンス、スペシャルは、2年後半から3年前半にかけて取得を目指す。難易度は高くなるが、専門教科や実習と関連付けて、学習成果の深化を図り、取得を目指す。

・・・概ね受験者の50%以上の合格を目標とする。

本校で取得可能な資格・検定一覧									
○ベーシック（各学科の基礎的な検定や普通科に関するもの）									
No.	職業資格等の名称	種別	主催団体等	F	G	M	H	I	
1	漢字能力検定	3級	文部科学省認定（財）日本漢字能力検定協会	○	○	○	○	○	
2	CG-ARTS協会各種検定	ベーシック	文部科学省認定 CG-ARTS協会						○
3	トレース技能検定試験	3級	文部科学省後援（財）中央工学生涯学習センター		○				
4	色彩検定	3級	文部科学省後援（社）色彩検定協会		○				
5	電気工事士	第2種	経済産業省管轄（社）電気技術者試験センター			○			
6	工事担任者	AI第3種	総務省管轄（財）日本データ通信協会			○			
		DD第3種							
7	危険物取扱者	乙種1～6類	総務省管轄（財）消防試験研究センター			○			
8	技能検定（造園）	3級	厚生労働省		○				
9	技能検定（園芸装飾）	3級	厚生労働省		○				
10	技能検定（フラワー装飾）	3級	厚生労働省		○				
11	技能検定（普通旋盤）	3級	厚生労働省			○			
12	技能検定（電子機器組立）	3級	厚生労働省			○			
13	技能検定（機械検査）	3級	厚生労働省			○			
14	全国高校家庭科技術検定 被服（洋服）	2・3級	（財）全国高等学校家庭科教育振興会					○	
15	全国高校家庭科技術検定 被服（和服）	2・3級	（財）全国高等学校家庭科教育振興会					○	
16	全国高校家庭科技術検定 食物	2・3級	（財）全国高等学校家庭科教育振興会					○	
17	全国高校保育技術検定（4種）	2・3級	（財）全国高等学校家庭科教育振興会					○	
18	機械製図検定		（社）全国工業高等学校長協会			○			
19	情報技術検定	2級	（社）全国工業高等学校長協会			○			○
20	計算技術検定	2級	（社）全国工業高等学校長協会			○			
21	情報処理検定	2級	（財）全国商業高等学校協会						○
22	ビジネス文書実務検定	2級	（財）全国商業高等学校協会	○	○	○	○	○	○
23	食の検定・食農級	3級	食の検定協会	○					
24	鳥取県福祉ヘルプメイト資格		鳥取県教育委員会					○	
25	品質管理検定	3・4級	（財）日本規格協会			○			
26	エクステリアプランナー	2級	（社）日本エクステリア工業協会		○				
27	バイオ技術者認定試験	初級	日本バイオ技術教育学会	○	○				
28	日本農業技術検定	3級	日本農業技術検定協会	○	○				
29	グラフィックデザイン検定	2級	（社）全国工業高等学校長協会						○
30	ITパスポート試験		情報処理推進機構						○

○アドバンス (難易度の高い資格や検定)						F	G	M	H	I
No.	職業資格等の名称	種別	主催団体等							
1	漢字能力検定	2級	文部科学省認定 (財) 日本漢字能力検定協会	○	○	○	○	○		
2	工事担任者	DD第1種	総務省管轄 (財) 日本データ通信協会				○			
3	工事担任者	DD第2種	総務省管轄 (財) 日本データ通信協会				○			
4	危険物取扱者	乙種4種目以上	総務省管轄 (財) 消防試験研究センター				○			
5	CG-ARTS協会各種検定	エキスパート	文部科学省認定 CG-ARTS協会							○
6	トレース技能検定試験	1・2級	文部科学省後援 (財) 中央工学生涯学習センター				○			
7	技能検定 (造園)	2級	厚生労働省				○			
8	技能検定 (園芸装飾)	2級	厚生労働省				○			
9	技能検定 (普通旋盤)	2級	厚生労働省					○		
10	技能検定 (電子機器組立)	2級	厚生労働省					○		
11	情報技術検定	1級	(社) 全国工業高等学校校長協会							○
12	ビジネス文書実務検定	1級	(財) 全国商業高等学校協会	○	○	○	○	○	○	
13	情報処理検定	1級	(財) 全国商業高等学校協会							○
14	日商PC検定試験 (文書作成)	2級	日本商工会議所							○
15	食の検定・食農級	2級	食の検定協会	○						
16	下水道技術検定	第3種	日本下水道事業団				○			
17	測量士補		国土交通省 国土地理院				○			
18	公害防止管理者	各種	(社) 産業環境管理協会				○			
19	日本語文書処理技能検定	1級	日本商工会議所							
20	計算技術検定	1級	(社) 全国工業高等学校校長協会					○		
21	日本農業技術検定	2級	日本農業技術検定協会	○	○					
22	スーパー農林水産士		鳥取県農林水産部・鳥取県教育委員会	○	○					
23	基本情報技術者試験		情報処理推進機構							○
24	FFJ検定	上級	鳥取県農業教育会	○	○					
25	全国高校家庭科技術検定 被服 (洋服)	1級	(財) 全国高等学校家庭科教育振興会						○	
26	全国高校家庭科技術検定 被服 (和服)	1級	(財) 全国高等学校家庭科教育振興会						○	
27	全国高校家庭科技術検定 食物	1級	(財) 全国高等学校家庭科教育振興会						○	
28	全国高校保育技術検定 (4種)	1級	(財) 全国高等学校家庭科教育振興会						○	
29	色彩検定	2級	文部科学省後援 (社) 色彩検定協会				○			

○スペシャル (非常に難易度の高い資格や検定)						F	G	M	H	I
No.	資格等の名称	種別	主催団体等							
1	漢字能力検定	準1級	文部科学省認定 (財) 日本漢字能力検定協会	○	○	○	○	○	○	
2	応用情報技術者試験		情報処理推進機構							○
3	日本農業技術検定	1級	日本農業技術検定協会	○	○					

F 食品システム科 G 緑地デザイン科 M 電子機械科 H 人間環境科 I 情報科学科

### 3 事業計画 (事業名、事業概要)

#### 【高等学校課事業】

##### (1) 地場産プラザ「わったいな」における生産物販売実習

農業学科の生徒が栽培・加工した生産物を直売センターで販売することで、流通・販売までを総括した学習を実践する。土曜日に実施することで本校教育内容を多くの県民にアピールし、生徒は達成感や満足感を得るとともに販売技術や接客マナーの向上につながる活動である。

##### (2) 外部人材活用事業

それぞれの専門分野の講師から直接、知識や技術を学ぶことで専門性の深化と応用を図る。また、地域と連携するなかで地域産業の理解や地域課題の解決能力を身に付ける。

##### (3) 「ようこそ高校へ」版キャリア塾

キャリア教育を推進するため、県内の有識者や本校を卒業した社会人から社会構成員として求められることや社会との関わり方、自己実現等について講義を受ける。良き社会人、社会の構成員を目指すためにも高校生活を充実させ、常に基礎学力の向上を図ることが大切であることを理解する。

#### (4) 東部地区専門高校協同企画「ふるさと手づくりまつり」

東部地区の専門高校が協同でその教育内容を発信し、東部地区の産業やものづくりの大切さを伝えるイベントである。各校生徒が、地域住民や小中学生を対象に各校の専門性をアピールする機会にはじめて取り組むものである。

##### 【独自事業】

#### (1) 人生を生き抜く力の育成

##### ア. インターンシップ

2学年175人が鳥取県東部地区の企業・施設等において本校で学んだ専門教育等の学習成果を発揮するとともに、勤労観・職業観の育成や社会との関わり方、自分自身の素養をみつめる機会として実施する。

##### イ. 上級学校・企業見学

県内の上級学校や関連企業の見学をとおして、地域教育や地域産業について理解する。また、実際に働いている方や施設や設備の様子から、自分自身を働いている姿を想像し、将来の進路選択に役立てる。

#### (2) 専門力を高める教育の推進

##### ア. 技術挑戦事業

##### ①校内緑化プロジェクト等【緑地デザイン科】

校内敷地内に庭園や樹木見本園を設計・施工し校内緑化を図るとともに、日ごろの学習成果を発揮する機会とする。また、校外での出展をとおして本校での学習成果をアピールする。

##### ②プリザーブドフラワーによるフラワーアレンジメント技術の向上【緑地デザイン科】

フラワーアレンジメント技術の中でも、特に注目を集めているプリザーブドフラワーの技術習得をとおして生徒の学習意欲の向上を図る。作品制作や展示することで本校のアレンジメント技術を紹介する。

##### ③Ene - 1 GP Suzuka への挑戦【電子機械科】

蓄電池とモータの組み合わせによる電気エネルギーの効果的な利用技術を研究する。ものづくりに興味を持たせ、製作技術の向上や問題解決能力の育成を図る。鈴鹿サーキットでの走行を目標に意欲的に取り組む。

##### ④ミュージックロボットシステム「ミューズ」の製作研究【電子機械科】

「工業実習」等で学習している Arduino マイコン制御をコアとして用いることで生徒が学習成果を強く体験できる。自動演奏楽器の種類を増やし、ロボットオーケストラを目指し、ロボットシステムの構築を進展する。

##### ⑤ファッションショー【人間環境科】

「ファッション造形基礎」の授業の成果発表として、「青陵祭」でファッションショーを実施。作品製作からものづくりの楽しさや達成感を、さらにショーの企画や運営に携わることで主体性を身につけさせる。

##### イ. 調査・研究

##### ①GAP取得～より安全・安心な湖陵ブランドの創造～【食品システム科】

生徒が主体的に GAP 取得に取り組むことで農業生産の安心・安全はもとより環境保全や労働保全に対する関心を高め、農業経営を科学的・社会的に捉える技術を身に付ける。5S教育やデータ管理などのマネジメントを重視することで生産の効率性を上げ、結果的にそれが湖陵ブランドへの確立につながる活動となる。

##### ウ. チャレンジ資格

##### ①湖陵版資格スタンダードの決定

各科で重点的に取り組む資格を生徒にわかりやすく説明するため、専門科目や特に重要視する部分を明示し、学習意欲の向上や課題研究への接続を円滑にすることを目的とする。本校における資

格見える化を図り、教科指導の充実や生徒の資格取得をしっかりと支援する。

②緑地デザイン技術講習会

専門資格である「園芸装飾」、「フラワー装飾技能検定」、「造園技能検定」の取得に向かって地域の関係者を講師として迎え、高い技術の習得するものである。

③技能オリンピック・若年者ものづくり競技会

標記の大会への出場を目標とすることで生徒の意欲向上や専門技術の向上につながるものである。地域産業との連携が深まる。また、技能五輪大会のステップ大会として開催される若年者ものづくり大会にも生徒に取り組みせる。

④検定取得による技術力向上（旋盤部門・電子機器組立部門）

普通旋盤や電子機械組立の技能検定3級合格を目標として、地域の熟練技能者から技術指導を受ける。本年度は一部の生徒ではあるが、2級取得にも取り組みせたい。

エ. 社会に開く学びの推進

①異世代交流事業

高齢者、障がい者、幼児等との交流をとおして、机上で体験することのできないつながりを感じることができる。この体験をとおして専門科目の教育内容の確認やの対人スキルの向上に取り組むことができる。また、小学校、中学校との園芸交流では、生徒が指導することで実践力を育成する。

**(3) 他者と協働して学ぶ**

ア. 進路実現へ向けた学び支援・学習セミナー

本校生徒の進路状況は、例年約6割が4年制大学や短期大学、専門学校への進学している。大学等への進学、特に国公立大学や近年希望者が増加している看護系専門学校を目指す生徒にとって、入学試験に合格できる学力をつける必要がある。そこで、放課後、本校教員の補助として大学生を招き、生徒への学習を支援してもらうことで、より効果的な学力の定着を図ることができる。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取緑風高等学校

重点項目	特別支援教育重点校	提出日	平成30年1月30日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標
(1) 基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成 (2) 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成 (3) 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成 (4) 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上 (5) 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実 (6) 自律性を伴った、生徒の自主性の育成 (7) 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成
2 重点項目に係る目標
『個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実』 近年、支援が必要な生徒の割合が年々増加傾向にあり、基本的生活習慣の確立や基礎的学力の育成等、本校の様々な取組において特別支援教育の視点から計画・実施する必要性が増大してきている。そのため、校内の職員研修や校外の研修会への参加及び自己研修を通して学んだことを日々の授業や生活指導で実践している。その取組の成果は、年間2回の生徒アンケート調査等により実態把握に努めている。 <数値目標> 現状では60%～80%で推移している満足度にかかる生徒アンケート項目全てが、8割を超える ※生徒アンケート項目 「多くの授業は工夫されていて、分かりやすい。」「多くの授業は、内容が充実しており、満足できる。」「授業に興味を持てる。」「先生は、質問や相談に丁寧に対応してくれる。」「昨年より学習意欲が向上した。」等
3 事業計画（事業名、事業概要）
【高等学校課事業】 ・高校における特別支援教育充実事業 講演会や研修会に参加することで、特別支援教育に関する理解を深めるとともに、効果的な指導法を考え実践する。 (1) 県外講師による校内職員研修会 組織的学習支援・キャリア支援の在り方等について職員研修を行う。 (2) 発達障がいや通級指導等について理解を深める県外の研修会参加 全国的な学界等に参加し、理解を深め実践するとともに最新の情報を得てそれを職員と共有する。

(3) 基礎学力定着や社会的スキル定着のための指導・支援や通級指導に類する実践についての先進校訪問、研修

県外で実施される合理的配慮等に関する研修会に参加し、理解を深め実践するとともに、その知識を職員と共有する。

・アクティブ・ラーニング推進事業

講演会や研修会に参加することで、生徒にとって分かりやすい指導について知識を深め、生徒の学習に取り組む基本的姿勢を育み、また主体性を引き出すアクティブ・ラーニングを取り入れた指導法を考え実践することで生徒の達成感や自己肯定感を養う。

(1) 県外講師による校内職員研修会

大学教員による講演により最新の情報や理論を得たり、異校種の現職教員による講演や実践報告等を通してアクティブ・ラーニングに関して理解を深め、実践する。

(2) 県外の先進的取組の視察

先進的取組を行っている県外の学校視察や報告会・研修会に参加し、そこで得られた指導法を実践することで、生徒にとって分かりやすく、主体的に参加できるような授業にする。

【独自事業】

・緑風ハートフル事業

様々な体験活動を通して、他者と関わりを持つ機会が少なく人間関係作りを苦手としている生徒のコミュニケーション能力を育成する。

(1) 夏季宿泊体験

山陰ジオパークを巡ったり、氷ノ山登山を行ったりすることで、郷土の自然や文化への理解を深める。また宿泊体験により様々な学年の生徒と交流し、コミュニケーション能力の向上を図る。

(2) 冬季スキー体験

宿泊しながらスキーを体験し、自然の中でスポーツを楽しむとともにコミュニケーション能力の向上を図る。

(3) 校内創作体験活動

ガラスアートや焼き物等の創作活動を行い、達成感・自己肯定感を育てる。

・基礎学力育成のための支援事業

不登校による学習の中断等、生徒は多様な学習歴を持っている。そのため基礎的学力の育成が大きな課題であり、習熟度別クラスや少人数指導に加え、以下のような学力向上に向けた取組を行っている。

(1) 緑風ソシオ

保健体育と英語の授業で大学生等による授業の支援や個別学習を実施している。

(2) ICT活用によるわかりやすい授業の研究

タブレットを活用した効果的な授業の実施に向け、外部講師を招いて授業研究を行う。タブレット活用の授業も増えつつある。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 青谷高等学校

重点項目	I C T活用教育重点校	提出日	平成30年2月8日
------	--------------	-----	-----------

1 学校目標
人づくり ～社会人として通用する人間を育てる～
2 重点項目に係る目標
タブレット端末を学習の補助ツールとして活用して授業改善に取り組むとともに、生徒の個に応じた基礎学力の向上を図り、主体的な学びにつながる指導の在り方を研究する。 <数値目標> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒のプレゼンテーション能力の向上<ul style="list-style-type: none"><li>青谷学（2年次）で複数回プレゼンテーションの機会を設け、自己評価・他者評価を実施。評価結果が向上する生徒が90%以上。</li></ul></li><li>基礎学力の向上<ul style="list-style-type: none"><li>基礎力診断テストのDゾーンの各階層（D1, D2, D3）の生徒の割合が年度当初に比べて数がそれぞれ5ポイント上位に推移。</li></ul></li><li>学習意欲の向上<ul style="list-style-type: none"><li>タブレット等を活用した授業の実施によって学習意欲が向上する生徒が60%以上。</li></ul></li></ul>
3 事業計画（事業名、事業概要）
<b>【高等学校課事業】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ICT（タブレット端末）活用推進事業<ul style="list-style-type: none"><li>複数アカウントが登録可能なシステムの活用<ul style="list-style-type: none"><li>Shared iPad の利用</li><li>端末の設定、ネットワーク管理などの MDM を業者委託</li></ul></li></ul></li></ul> <b>【独自事業】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>ICTを活用した学力向上<ul style="list-style-type: none"><li>(1) Shared iPad 及び Apple School Manager の活用研修会の実施<ul style="list-style-type: none"><li>タブレットを活用した授業の推進（授業改善の取組）</li><li>基礎力診断テストと連携した利用（基礎学力向上の取組）</li><li>活用方法の共有</li></ul></li><li>(2) 先進校視察及び全国規模の研究発表会への参加<ul style="list-style-type: none"><li>先進導入校の活用状況の視察</li><li>授業以外の場面への活用</li><li>家庭での活用方法の研究</li></ul></li></ul></li></ul>

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 青谷高等学校

重点項目	地域連携重点校	提出日	平成30年2月8日
------	---------	-----	-----------

## 1 学校目標

人づくり ～社会人として通用する人間を育てる～

## 2 重点項目に係る目標

- (1) 地域に関する学習や地域行事への参加などを通して、地域の中で主体的に生き、地域に参画・貢献できる姿勢・態度を養う。
- (2) 学習成果をまとめたり、発表したりすることや、さまざまな場面で企画、開発、販売などに携わる体験を通して、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。
- (3) 地元企業や地域の人々と連携した取組を通じて、人間関係形成力、社会参画力を養う。
- (4) ボランティアやその他地域連携に係る取組へ参加することを通じて、充実感や達成感を感じ、自己肯定感を高める。
- (5) 地域とのかかわりを通じて、地域から応援される学校づくりを推進する。

### <数値目標>

- 地域活動（地域行事やボランティア活動等）に参加した生徒の割合が、全生徒の5割以上である。（平成29年度実績は1割未満）
- 地域活動に参加して自己肯定感が高まったと感じる生徒の割合が、参加した生徒の5割以上である。（地域活動参加後、生徒アンケートを実施する。）
- 地域活動等に関わった地域の方々から「青高生は地域に参画・貢献できている」と肯定的に評価される割合が5割以上である。（活動後、お世話になったの方々等を対象にアンケートを実施する。）

\*アンケートの具体的内容は今後検討する。



### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【独自事業】

##### （1）青谷学

- ・学校設定科目「青谷学」（2年次）

地域の人財を外部講師として活用し、地域の自然・歴史・文化・産業を学習する。

- ・青谷木綿復活事業

江戸時代に地域の特産品であった青谷木綿の復活をめざし、綿花の栽培から綿製品の製作まで体験する。

- ・青谷の食材を活用したパンレシピ作成（3年次）

3年次の課題研究で、青谷学で生産した農作物や地域特産の果物等から天然酵母を育て、パンを製造し、学校や地域の行事で販売する。

##### （2）青谷地域美化活動

- ・ t h a n k s a o y a f l o w e r 事業

青谷駅、あおや郷土館など地域の施設に草花プランターを飾る。

##### （3）青高活性化活動

- ・青高売店キラキラプラン

平成29年度とっとり夢プロジェクト事業（青谷因州和紙で青高自慢つくら〜で!）を継続し、地元企業と連携して学校売店のリノベーションを進める。

##### （4）保育実習

- ・すくすく保育園保育実習（3年次）

「子ども文化」の授業の中で、年3回保育実習を実施する。

##### （5）ボランティア活動の推進

- ・保育ボランティア支援

地域のすくすく保育園の土曜保育の手伝いをする。

- ・地域行事への参加

「あおいち」など地域の行事をボランティアとして手伝うとともに、企画にも関わる。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 岩美高等学校

重点項目	基礎学力向上重点校	提出日	平成30年1月17日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標（本校のミッション）
1 郷土を愛し、鳥取県及び地域に貢献する人財を育成する。 2 自らを信じ、他者を敬い、礼節を重んじる人間を育成する。
2 重点項目に係る目標
<b>重点項目【基礎学力向上】に係る目標</b> 1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 2 生徒の主体的な学びに喜びを見出し、解決する力、伝える力を身につけさせる。 3 多様な生徒に対して、一人ひとりが大切にされていると実感させる。 <数値目標> ・基礎力診断テストで基礎学力が定着していないと診断された生徒（D3層）の人数を、 1年次と2年次で比較→2年次で、1年次の2割以上減（H29年度は22%減） ・岩美高校独自の基礎学力定着度を測る検定試験（イワッツ検定）→3年生全員が1学期までに初級合格（H29年度は96%） ・第1志望での進路決定率→3月末で9割以上（H29年度は93%） ・ユニバーサルデザインを意識して教育活動をしている教員の割合→8割以上（H29年度は78%）
3 事業計画（事業名、事業概要）
<b>【関連独自事業】</b> <b>重点項目【基礎学力向上】に係る関連事業</b> 1 <b>基礎学力の定着と進路保障</b> ●「学びチャレンジ」プログラム・・・授業の中での学び直し（リスタート学習・イワッツ検定）や課外学習プログラム（進路志望別放課後補習、国公立大合格プロジェクト等）をとおして、多様な生徒一人一人の第1志望を大切に学習プログラムを提供 2 <b>円滑な高校生活への移行</b> ●新入生宿泊ガイダンス・・・入学直後に1泊2日の学習・生活・進路に関するガイダンスを実施することにより、早期に岩美高校での生活に慣れ親しめるようにする。 3 <b>進路意識の高揚</b> ●インターンシップ等の進路学習・・・高校3年間を通じた系統的なキャリア形成プログラムの実施し、健全な社会性・職業観を育成 4 <b>特色ある教育活動の展開</b> ●健康教育・生徒サポートの充実・・・健康に対する意識や自尊心を高める教育、自他の理解に関する教育等についての教員研修をとおして生徒サポートを一層充実 ●類型別諸行事の充実・・・スポーツ、福祉、手話等に関連した、岩美高校の特色ある行事や授業等をとおして助け合いの精神や自己肯定感をもった人財を育成

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 岩美高等学校

重点項目	地域連携重点校	提出日	平成30年1月17日
------	---------	-----	------------

1 学校目標（本校のミッション）
1 郷土を愛し、鳥取県及び地域に貢献する人財を育成する。 2 自らを信じ、他者を敬い、礼節を重んじる人間を育成する。
2 重点項目に係る目標
重点項目【 <b>地域連携</b> 】に係る目標 1 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。 2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 <数値目標> ・「地域に貢献したい」と思う生徒の割合→全校の7割以上（H29年度66%） ・「子供は、高校生活をとおして人間的に成長をしている」と回答した保護者の割合→9割以上（H29年度90%）
3 事業計画（事業名、事業概要）
<b>【関連独自事業】</b> 重点項目【 <b>地域連携</b> 】に係る関連事業 1 <b>イワッツ・プロジェクト</b> 岩美高校のPR活動を含む地域と連携した様々な人財育成プログラムの実施 <b>●イワッツプロジェクト～高める～</b> ・2年生全員を複数の班に分け、地元大学生をアシスタントに、地域の方を講師に招いて、地域と連携した探究的な学習（イワッツミッション）を、岩美町内をフィールドに展開し、課題解決力を身につけさせるとともに、郷土愛、感謝と支え合いの心を持った人財を育成する。 <b>●イワッツプロジェクト～つながる～</b> ・授業や部活動をとおして、町内の小中学校や地元各団体とつながり、地域を元気にする活動を展開（小学生のシュノーケリングやシーカヤックの支援、野外キャンプ、浦富海岸健康マラソンへの参加等の地域の行事等）し、地域の一員であることの自覚を高めるとともに、地域で自分の役割を果たして生きていく人財を育成する。 <b>●イワッツプロジェクト～広げる～</b> ・岩美高校の教育活動や特徴・魅力等を、町内や東部地区各中学校等に広く積極的に発信・広報し、開かれた学校づくりを一層推進するとともに、イワッツミッションの「成果発表会」を開催し、生徒の表現力を一層高めるとともに活動の成果を広く地域に発信する。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 八頭高等学校

重点項目	スポーツ・文化芸術活動重点校	提出日	平成30年1月22日
------	----------------	-----	------------

## 1 学校目標

- (1) 八頭高生らしい態度の育成
  - ①家庭学習の習慣化
  - ②学習と部活動の両立
  - ③自治精神に満ちた活発な生徒会活動
  - ④良好な人間関係が築ける生徒の育成
- (2) 生徒が主体的に学習する授業改革
- (3) 自らの進路を決定し、達成する能力の育成
- (4) 八頭地域の小中学校と連携し、地域貢献できる生徒の育成

## 2 重点項目に係る目標

- (1) 学校と部活動の両立を通して八頭高生らしい態度を育成する。
- (2) 運動部活動、体育コースの活性化によって優れたアスリートを育成する。
- (3) 文化部活動の活性化によって創造性を育成する。

<数値目標> ※は過去5年間に出場実績がある競技

全国大会出場（全国高校総合体育大会、全国高校選抜大会、全国高校総合文化祭 等）  
陸上競技※（男子・女子※全国高校駅伝を含む）、弓道※、ホッケー男子※・女子※、  
卓球（個人※）、バレーボール男子・女子※、柔道男子※・女子※、剣道※、硬式野球※  
放送※、吹奏楽、美術※、書道※

## 3 事業計画（事業名、事業概要）

### 【高等学校課事業】

#### ・外部人財活用事業

バランス改善エクササイズ講習会、ウェイトトレーニング講習会、エアロビック講習会  
コンディショニング講習会

### 【独自事業】

#### ・八頭高校愛し愛され運動（地域貢献事業）

八頭町内小学校における書道パフォーマンス、吹奏楽演奏、箏曲演奏  
地元小学校におけるスポーツテスト模範演技指導、計測・記録、補助

#### ・海外文化交流

韓国江原道・ジャマイカにおける書道パフォーマンス披露（平成29年度実績）

#### ・「アトスペースYAZU」（校内展示室）における作品展、上演会、パネル展等

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 八頭高等学校

重点項目	県外生徒募集重点校	提出日	平成30年1月23日
------	-----------	-----	------------

## 1 学校目標

- (1) 八頭高生らしい態度の育成
  - ①家庭学習の習慣化
  - ②学習と部活動の両立
  - ③自治精神に満ちた活発な生徒会活動
  - ④良好な人間関係が築ける生徒の育成
- (2) 生徒が主体的に学習する授業改革
- (3) 自らの進路を決定し、達成する能力の育成
- (4) 八頭地域の小中学校と連携し、地域貢献できる生徒の育成

## 2 重点項目に係る目標

県内中学生部員が減少している柔道・剣道競技、地域からの支援を得てオリンピック選手を継続して輩出しているホッケー競技の優秀な県外生徒を募集することによって、学校・地域の活性化を一層推進する。

### <数値目標>

- ホッケー競技 全国大会出場（全国高校総合体育大会、国民体育大会等における上位入賞）  
※ホッケー女子 平成28年度全国高校総合体育大会 第3位
- 剣道競技 全国大会出場（全国高校総合体育大会、国民体育大会等）
- 柔道競技 全国大会出場（全国高校総合体育大会、国民体育大会等）

## 3 事業計画（事業名、事業概要）

### 【高等学校課事業】

首都圏及び関西圏で開催される移住定住相談イベント（公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構主催）及び県外生徒募集個別相談会（県教育委員会主催）への参加

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 八頭高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成30年1月22日
------	---------	-----	------------

1 学校目標
<p>(1) 八頭高生らしい態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭学習の習慣化</li> <li>②学習と部活動の両立</li> <li>③自治精神に満ちた活発な生徒会活動</li> <li>④良好な人間関係が築ける生徒の育成</li> </ul> <p>(2) 生徒が主体的に学習する授業改革</p> <p>(3) 自らの進路を決定し、達成する能力の育成</p> <p>(4) 八頭地域の小中学校と連携し、地域貢献できる生徒の育成</p>
2 重点項目に係る目標
<p>地域学校としての八頭高校の魅力化、特色づくりのため、国公立大学等を中心とした大学進学に対応した教育課程編成、学習・進路指導、授業改善の推進を行い、生徒一人ひとりの着実な学力伸長を図ることによって進学実績を向上させる。</p> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>国公立大学合格60名（難関国公立10大学を含む）</p> <p>※国公立大学合格者数</p> <p>H26年度入試44名 → H27年度58名 → H28年度43名 → H29年度51名 → H30年度60名（目標）</p> <p>※過去5年間の主な国公立大学合格実績…東京大学、京都大学、神戸大学、東京藝術大学、首都大学東京、筑波大学、岡山大学、広島大学、鳥取大学、鳥取環境大学、島根大学</p>
3 事業計画（事業名、事業概要）
<p><b>【高等学校課事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜授業等実施事業 土曜自習教室、国公立大学・私立大学進学相談会「夢ナビライブ」（大阪）</li> <li>・外部人財活用事業（鳥取環境大学教員交流） 探究ゼミ（ガイダンス、中間発表、最終発表）、鳥取大学体験実習</li> <li>・「ようこそ高校へ」版キャリア塾 大学生に聞く「大学と高校の勉強の関係」、キャリア設計講演会</li> <li>・「教えて先輩」版キャリア塾 探究コースによる地元企業家・文化人訪問</li> <li>・21世紀型能力を育むための講師派遣事業 「深い学び」を促進する授業改善研修会（アクティブラーニング・ICT活用）</li> </ul> <p><b>【独自事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科でつながる八頭タワー 英語・数学の中高連絡会、中学生特別学習会（高校開催）、先輩に学ぶ学習会（中学校開催）</li> <li>・「難関大学を目指そう」講演会</li> <li>・「目指せ文武両道」勉強合宿</li> <li>・英語活用力向上事業 大学入学共通テスト（平成32年度開始）へ向けた英語運用能力検定試験の全員受験</li> <li>・2年生研修旅行（大学訪問）</li> </ul>

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 智頭農林高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成30年2月13日
------	-----------	-----	------------

## 1 学校目標

「一人ひとりを大切に」を教育の根幹におき、勤労と責任を重んじ、心身とも健康で地域産業及び社会の発展に貢献できる人材を育てる。

- (1) 学習指導の充実～授業実践および県版SPHやスーパー農林水産業士の取り組みをとおして「学びの質」をあげ、生徒の学力の向上を目指す～
- (2) 生徒指導の充実～規範意識の醸成と清々しい教育環境の整備を図る～
- (3) 生徒支援の充実～年間を見通した生徒支援を行い、生徒一人ひとりの進路実現を図る～
- (4) 地域連携の充実～地域の教育資源を活かし、本校の教育資源を地域に活かす～

## 2 重点項目に係る目標

○地域の産業界や教育機関等と連携し、社会で求められる多様な知識・技術や、専門的な資質・能力を生徒に習得させる。専門教育の基礎・基本を徹底し、学習意欲の向上や資格取得に向かう意欲の育成をめざす。

○6次産業化など地域の担い手としての意識や自覚を育み、地域に貢献する人材を育成する。「県版SPH事業」や「スーパー農林水産業士制度」を有効活用し、学校と地域産業の連携を一層密にすることで、専門教育の深化と魅力化を図る。

### <数値目標>

- ・スーパー農林水産業士の3名以上の認定をめざす。  
(平成29年度は2名の認定)
- ・資格取得にチャレンジした生徒の割合80%以上をめざす。  
(平成29年度は78.3%)
- ・資格取得合格を昨年度より10%以上の増加をめざす。  
ふるさと創造科：日本農業技術検定3級の合格率50%以上をめざす。  
(平成29年度は合格率33.3%)  
森林科学科：技能検定3種(家具手加工3級・建築大工3級・造園工事作業3級)の合格率50%以上をめざす。  
(平成28年度は合格率35.7%)  
生活環境科：室内園芸装飾3級・造園工事作業3級の合格率60%以上をめざす。  
(平成29年度は合格率50%)

### 【各種資格・検定の概要】

- ・日本農業技術検定…農業を学ぶ学生や農業を仕事にしたい人のための検定。農業についての知識・技能の水準を客観的に評価し、教育研修の効果を高める事を目的とする。
- ・家具手加工作業…家具製作の職種に必要な技能(現寸図の作成、木取り、家具の工作、金具類の取付け)及びこれに関する知識(家具一般、製図、安全衛生、家具手加工作業法)の習得レベルを評価する技能検定試験(国家検定制度)。

- ・ 建築大工…建築大工の職種に必要な技能（大工工事作業）及びこれに関する知識（建築構造、規矩術、施工法、材料、製図、安全衛生）の習得レベルを評価する技能検定試験（国家検定制度）。
- ・ 造園工事作業…造園の職種に必要な技能（地割り、庭木等の選定、造園工事の施工玉掛け）及びこれに関する知識（庭園及び公園、施工法、材料、設計、関係法規、安全衛生）の習得レベルを評価する技能検定試験（国家検定制度）。
- ・ 室内園芸装飾作業…園芸装飾の職種に必要な技能（室内園芸装飾、観賞用植物の維持管理）及びこれに関する知識（室内園芸装飾法、材料、植物一般、観賞用植物の維持管理、園芸施設、安全衛生）の習得レベルを評価する技能検定試験（国家検定制度）。

### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【高等学校課事業】

◎ 県版 S P H（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール）事業

※ 以下は、「専門人材育成」に重点をおいた内容

#### I 人材育成事業

- 1 長期就業体験（デュアルシステム）の導入と実践
- 2 林業における6次産業化教育
- 3 高度な資格・大会等への挑戦（若年者ものづくり大会への挑戦）

#### II 学習指導の改善事業

- 4 専門的な実践力を上げるための専門教育の内容や教育法の開発と実践
  - ①先進校視察、②上級学校見学研修、③森林実習（高大連携）

#### 【独自事業】

① 地域における園芸福祉の拠点づくりと交流活動の実践

・ 事業のねらい

- (1) 園芸福祉の知識・技術の習得
- (2) 園芸福祉の交流活動の実践を通じた福祉マインドやコミュニケーション能力の育成および交流対象者との信頼関係の醸成
- (3) 農産物（花・野菜・ハーブなど）を活用した福祉・保育の実践的な活動
- (4) 花壇を活用したレクリエーション

・ 事業内容

- (1) 花・ハーブ・野菜の栽培交流活動（「園芸福祉活動実践」・「課題研究」）
- (2) 芝人形づくり交流活動（「園芸福祉活動実践」・「課題研究」）
- (3) ミニフラワーアレンジメント・コンテナガーデン・ハンギングバスケットづくり交流活動（「園芸福祉活動実践」・「課題研究」）
- (4) 花・野菜・ハーブなど農産物の栽培（「総合実習」・「園芸福祉活動実践」）
- (5) 幼児・高齢者とのレクリエーション活動（「ふれあい実践」・「レクリエーションスポーツ」）

② 地元産業藍染めを学ぶ

・ 事業のねらい

- (1) 藍染めを活用したものづくり学習を通して、生徒の生活に関する知識と技術の習得につなげる。
- (2) 地元産業である藍染め技術を本校生徒に学習させ、地域との連携に寄与する。



(3) 授業に取り入れる過程において藍染めに関する教職員の技術力の向上を図る。

・事業内容

- (1) 染料となる藍を校内の圃場で種から育て、生育した葉から藍液を作成する。
- (2) 生徒自ら作った染料を用いて藍染めに取り組む。なお、染色だけでなく、染めた布や糸を使い、作品制作等にも取り組む。
- (3) 教職員の技術力向上のため、地元の企業組合の協力を得て、染色や作品制作に関わる技術研修を行う。

③智頭農林ブランド食品加工品の開発

・事業のねらい

- (1) 地域の特産物を生かし智頭農林高校独自の製品開発を目指す。
- (2) 地域企業の人材を生かし、専門技術に熟練した講師を招き、食品加工技術を習得する。
- (3) 平成30年度にふるさと創造科に導入される学校設定科目「地域特産品研究」を実施するにあたり商品開発やその手法について研究し実践する。
- (4) 本校や智頭町で栽培している「ルバーブ」の特産品化に向けて、栽培と加工技術の研究を行う。また、従来から栽培している「トマト」「メロン」などの加工品開発研究を行い新たな特産品を開発する。

・事業内容

- (1) 地域と連携し食品加工技術の習得をはかり、製菓・製パンを中心に地域の特産物となる商品開発に取り組むとともに、「地域特産品研究」の授業に生かすことのできる教育内容を検討する。
- (2) 地元智頭町の百人委員会や振興協議会等と連携し、商品開発に生かせる素材を発見する。
- (3) 地元商店街の空き店舗を利用した「ちのりんショップ」の運営及び販売する加工品と農産物の生産を行う。

④校内作庭実習

・事業のねらい

- (1) 実践的な作庭（設計から施工まで）を行うことにより、より深い専門的技術を習得させる。
- (2) 生徒の学習成果発表の場とする。
- (3) 造園業などの関連産業への理解を深め、将来の進路を考える一助とする。

・事業内容

作庭実習

内 容 作庭実習

時 期 8月下旬～12月上旬

対 象 生活環境科住環境デザインコースの3年生全員

⑤智頭町・智頭病院等の庭園管理

・事業のねらい

- (1) 日頃の実習で身に付けた技術を生かして、生徒自身が公的な場所で管理作業等をする機会を設けることで、学びへの意識を高める。
- (2) 本校の教育活動の一端を地域の方にも知ってもらえる機会とし、生徒自らの作業実践

により自己有用感の醸成をめざす。

(3) 日頃利用している駅周辺や公的施設等を美しくすることで、美意識の涵養につなげる。

・事業内容

(1) 智頭駅前庭園の管理

- ・内 容：除草・雪つりを年に1～2回程度実施する。
- ・対象生徒：生活環境科住環境デザインコース生

(2) 智頭病院の装飾

- ・内 容：智頭病院のロビーの一角にプランター等を活用して室内装飾を年2～3回実施する。
- ・対象生徒：生活環境科住環境デザインコース生

⑥自己表現のためのものづくり体験

・事業のねらい

- (1) 「さをり」を活用したものづくり学習を通して、生徒の生活に関する知識と技術の習得や自己実現につなげる。
- (2) 「さをり」に関する教職員の知識や技術力の向上を図る。
- (3) 藍染めや「さをり」を使ったオリジナル作品を製作する。

・事業内容

- (1) 生徒自身が実体験をし、さらにその作品から小物や被服製作等にも取り組む。  
(生活デザインコース『課題研究』さをりコース受講者約9名×週3時間)
- (2) 教職員の技術力向上のため、手織りや作品製作に関わる技術研修を行う。  
また基礎編から徐々に上級編まで研修を行い技術の向上を図る。  
(研修：手織り適塾さをり (大阪))
- (3) 地域の方を講師に招き、デザイン・縫製講習会を開催する。  
(対象：生活デザインコースの2、3年生)

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 智頭農林高等学校

重点項目	地域連携重点校	提出日	平成30年2月13日
------	---------	-----	------------

## 1 学校目標

「一人ひとりを大切に」を教育の根幹におき、勤労と責任を重んじ、心身とも健康で地域産業及び社会の発展に貢献できる人材を育てる。

- (1) 学習指導の充実～授業実践および県版SPHやスーパー農林水産業士の取り組みをとおして「学びの質」をあげ、生徒の学力の向上を目指す～
- (2) 生徒指導の充実～規範意識の醸成と清々しい教育環境の整備を図る～
- (3) 生徒支援の充実～年間を見通した生徒支援を行い、生徒一人ひとりの進路実現を図る～
- (4) 地域連携の充実～地域の教育資源を活かし、本校の教育資源を地域に活かす～

## 2 重点項目に係る目標

- 地域連携を通して、地域の活性化に寄与するとともに、生徒の全人的な発達を促し、地域に期待される学校をめざす。
- 地域や地元産業と「顔の見える連携」を推進し、生徒が自主的に活動できる機会を持つことで、関わった生徒の満足度や達成感、自己有用感が高まるなど教育的効果を期待する。
- 本校の教育資源と地域の教育資源を活用することで、学校と地域の活性化を図るとともに、学校の特色化・魅力化を推進する。生徒や教職員の専門的知識や技術力を、可能な限り地域に発信できるよう連携を密にする。

### <数値目標>

- ・地域連携を教育内容に取り入れている専門科目50%以上をめざす。  
(平成29年度は専門科目31.9%で地域連携を実践)
- ・参加生徒アンケートにより、満足度80%以上をめざす。  
(平成29年度は地域活動に積極的に参加している生徒の割合が約45%)
- ・地域連携活動後に地域からの評価アンケートを実施し、80%以上の評価をめざす。

## 3 事業計画（事業名、事業概要）

### 【高等学校課事業】

#### ◎地域連携担当教員の配置

地域と連携した学校の特色化に取り組み、地域の特性を生かした教育活動を効果的・効率的に展開するために、地域連携の中心を担う教員を配置。

※以下は、主幹として取り組んだ内容

- ・県版SPH事業の地域連携活動（「地域基礎」の実践、インドネシアとの交流学习等）
- ・地域との各種交流活動やボランティア活動（地元中学校との交流活動等）
- ・学校の専門的知識や技術の地域への発信活動（技能フェアや学校祭での体験教室等）
- ・地域コーディネーターとの連携

#### ◎県版SPH（スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール）事業

※以下は、「地域連携」に重点をおいた内容

I 人材育成事業 インドネシアとの交流学习

II 学習指導の改善事業

地域理解のための基礎科目の開発と実践（「地域基礎」の教育内容の充実）

III 地域連携・貢献事業

地域の伝統的な文化や技術を継承し発展させる取組

①棚田の補修の取組、②格子の製作

【独自事業】

①保育所・高齢者福祉施設との藍染め交流

・事業のねらい

- (1) 藍染交流を通して保育施設の果たす役割や幼児の特徴の理解に役立てる。
- (2) 藍染交流を通して高齢者福祉施設の果たす役割や高齢者の理解に役立てる。
- (3) 保育園児や高齢者との染色を通じた交流を図ることにより、相手を思いやる心やコミュニケーション能力を育てる。
- (4) 本校で学んだ藍染めを地域の方に伝えることにより、本校で行っている実習内容を実際に広く地域の方に知っていただく。

・事業内容

(1) 保育園児との藍染め交流（生活環境科3年）

保育園児を本校の実習室に招き、ハンカチの絞り染め作品を制作する。藍染めの経験を積んだ生徒の指導により、園児との交流を深めながら作品制作をする。できあがった作品は、保育園の生活発表会で展示する予定である。

(2) 地域高齢者との藍染め交流（生活環境科2年）

生徒が施設へ出向き、施設利用者とともに、ハンカチの絞り染め作品を制作する。藍染めの経験を積んだ生徒の指導により、施設利用者との交流を深めながら作品を制作する。準備過程での作業（ハンカチを折る・ゴムなどで絞る）は、機能訓練の一環にもなるので、高齢者の身体状況を理解する機会として今後役に立つと考えている。

②地元商店街における生産物の販売

・事業のねらい

- (1) 学校や地域で生産される農産物・加工品を町内の商店街で販売し生徒のコミュニケーション能力や経営感覚を育成する。
- (2) 地域特産品の開発、販売を通して起業家教育を推進する。
- (3) 地域の商店街で活動することで地域の実情を体感し、地域の活性化を図る。
- (4) 取組の成果や商店街の課題等について、高校生の視点で智頭町百人委員会で報告を行う。

・事業内容

- (1) 店舗（ちのりんショップ）は智頭駅近くの空き店舗を利用する。販売日程は5月～12月の8ヶ月間、月当たり土曜日1回（土曜授業等）・平日1回を予定している。平日の授業は課題研究の時間をあてる。
- (2) 販売品目は、智頭農林で生産した野菜、パン、スイーツ、切り花・花苗に加え智頭町の農家および企業と連携した生産物を仕入れたものとする。店舗にPOSシステムを導入することにより、顧客に関する情報を収集し、商品の売れ筋動向を調べ、計画的な生産と仕入に関する学習に取り組む。

- (3) 生徒が自ら地元商店街で販売することで、農業に関する学習だけでなく地域の過疎化や高齢化問題を学習する。
- (4) 商品陳列やPOPなどを工夫することによって、顧客の満足と集約について学習する。
- (5) 研修旅行の科別研修として、大阪など都会での販売実習を実施する。(智頭町百人委員会で予算要求を予定)

③中学生と本校生徒の桜土手花壇整備

・事業のねらい

- (1) 中学生と本校生徒が主体となって、共同の学習活動を行うことで、学ぶ喜びや地域を共同で美化する社会貢献活動を体験する。
- (2) 中学生に農林業専門高校である本校の理解を深めてもらう機会とする。

・事業内容

地域美化活動教室（桜土手花壇の苗育成から植栽、管理活動）

(1回目) 6月上旬

桜土手の除草 本校 1～3年生、智頭中生徒

夏花壇苗の定植 本校 1～3年生、智頭中生徒

(2回目) 10月～11月下旬

桜土手の除草 本校 1～3年生、智頭中生徒

冬花壇苗の定植 本校 1～3年生、智頭中生徒

④智頭中学生と本校の学校間交流事業

・事業のねらい

智頭中学生を含め、県内外の関係機関に対し農林業専門高校である本校の理解を深めてもらう機会とする。

智頭中学生と本校生徒が主体となって、共同の学習活動を行うことで、学ぶ喜びや感謝の気持ちを形にする活動を体験する。

・事業内容

智頭中学校との交流

実施時期 10月中旬 午後2時間

会場 智頭農林高等学校 各科実習室

参加生徒 本校3年生、智頭中学2年生徒

活動内容 ふるさと創造 「ルバーブを使ったジャム作り」

森林科学科 「智頭杉を使ったペン立て」

生活環境科 「藍染めハンカチ作り」

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉東高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成30年1月31日
------	---------	-----	------------

## 1 学校目標

「倉吉東高のかたち」の理想に沿った様々な教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす。

## 2 重点項目に係る目標

・中部地区を代表する進学校として、国公立大学等を中心とした大学への進学に対応した教育課程編成に努め、生徒の着実な学力の伸長を図るとともに、生徒・保護者・中学校などからの期待にふさわしい進学実績を維持し、さらなる向上をめざす。

<数値目標>

	現役合格者数	実績			現浪合格者数	実績		
		H28	H27	H26		H28	H27	H26
国公立大学	125名以上	119	140	131				
中堅国公立大学	45名以上	25	37	27	60名以上	30	51	45
難関国公立大学	15名以上	7	16	12	20名以上	8	24	18
東京大学	3名以上	0	2	0	5名以上	1	5	1

## 3 事業計画（事業名、事業概要）

### 【高等学校課事業】

#### ・学校連携チャレンジ・サポート事業

3校合同東京大学対策講座、1年生難関校志望者学習研修を、鳥西生、米東生をはじめとする県下の超難関大学志望者とともに受講、研修を重ねることで、本校超難関大志望者の学習意欲を高めると共に、参加校の教職員との情報交換ならびに本校教職員の教科指導力の向上を図る。

#### ・鳥取県版キャリア教育推進事業

文理選択とキャリア形成（1年）、学部学科研究と進路選択（2年）、大学受験の現状と大学での学習内容（3年）のそれぞれについて、有識者や大学職員を招いて講演を行うことで、生徒の目標設定や意識付けを図る。

#### ・21世紀型能力を育むための講師派遣事業

県外教員との授業実践及び研究・交流、教職員アクティブラーニング理論研修を企画実施することにより、最先端の教科教育法を学び、実践に活かす。

【独自事業】以下の記号はH30年度学校運営に基づく各種事業計画一覧(別添)より引用

### B-1(2)②第3学年勉強会 ③進路指導資料の充実

学力向上対策として、3年生の部活引退後の夏季休業中に5日間連続校内での勉強会を実施することで、今後学校に軸足を置いた学習を展開させるとともに、受験問題集、参考資料等を

整備し、生徒の活用を促進させる。

**B-2 (3) ①タブレット端末活用研修 ②予備校派遣 ③教科指導先進校視察 ④教科指導力向上事業 ⑤「アクティブラーニング」に係わる研修**

教科指導力の向上対策の一環として、タブレット活用研修、予備校研修、先進校視察、校内研究会等を行い、教員の力量を向上させ授業改善を推進する。

**B-2 (4) ①教職員の大学訪問**

大学のアドミッションポリシー、特色ある研究内容等の情報を収集し、蓄積することにより、時代に即した進路指導の充実を図る。

**B-3 ①進路講演会**

保護者連携事業として進路講演会を実施し、生徒、保護者双方が大学入試の現状や大学入試に向けての心構え等について講演を聞き、進路意識の向上を図る。

**三位一体となった倉吉東高の進学指導**

■ 学校独自事業  
■ 高等学校課事業



# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉東高等学校

重点項目	英語教育重点校	提出日	平成30年1月31日
------	---------	-----	------------

## 1 学校目標

「倉吉東高のかたち」の理想に沿った様々な教育活動を充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす。

## 2 重点項目に係る目標

大学入試改革に向けて先進的な取組みを研究するとともに、科学的根拠に基づいた英語教育法の実践研究を行い、授業改革を推し進める。

国際高校生フォーラム、グローバル人材育成事業、倉東 English Day、世界で活躍するプロフェッショナルによるミニレクチャー等の特色ある取組みを実施し、意欲ある生徒の英語力を更に伸ばす取組みを組織的に行う。

<数値目標>

進研模試英語目標偏差値 (以下 マ;マーク模試の略、記載なし;記述模試)

	目標値				目標値				目標値				目標値							
	7月	H29	H28	H27	11月	H29	H28	H27	1月	H29	H28	H27	2月マ	H29	H28	H27	11月マ	H29	H28	H27
1年	<b>58</b>	56.3	54.6	53.4	<b>59</b>	56.3	55.3	56.3	<b>60</b>		57.8	57.1	目標値							
2年	<b>60</b>	55.8	56.7	55.9	<b>59</b>	56.4	55.9	55.0	<b>59</b>		56.6	54.6	<b>59</b>		59.5	57.3	目標値			
3年	<b>57</b>	56.3	55.3	56.5	<b>56</b>	54.0	53.5	55.3	<b>55</b>	53.2	53.6	55.9	<b>55</b>	51.4	51.5	53.6	<b>56</b>	53.1	53.5	55.1

GTEC	目標値 学年平均点	H29	H28	H27
1年 B型※	12月 <b>480</b>	477.4	450.0	443.2
2年 A型※	12月 <b>520</b>	497.3	502.4	489.9

※; B型=Basic  
※; A型=Advanced

## 3 事業計画 (事業名、事業概要)

### 【高等学校課事業】

#### ・鳥取県版キャリア教育推進事業

グローバル社会において身に付けて起きたい力について、海外勤務経験者による講演から学び、国際的な視野の拡大を図る。

#### ・土曜授業等実施事業

グローバル人材育成事業における県内視察を通して探究した成果を英語でプレゼンする。

#### ・21世紀型能力を育むための講師派遣事業

英語科における県外教員との授業実践及び研究・交流、教職員アクティブラーニング理論研修を企画実施することにより、最先端の英語教育法を学び、実践に活かす。



【独自事業】 以下の記号は H30 年度学校運営に基づく各種事業計画一覧(別添)より引用

A-①プレゼンテーションコンテスト ②国際高校生フォーラム

生徒が解のない問題について調査研究をすることを通して、その解決策についての提言やその報告書を日本語と英語で作成することにより、英語でのプレゼン力を向上させる。

B-2-(3)④教科指導力向上事業 ⑤アクティブラーニングに係わる研修

英語指導力向上と授業改善を意図した研究授業、示範授業等を通して、教員の力量を向上させ、英語によるより効果的な授業実践を推進する。

C-①海外研修旅行、②学校間交流活動、③グローバル人材育成事業、④倉東 English Day

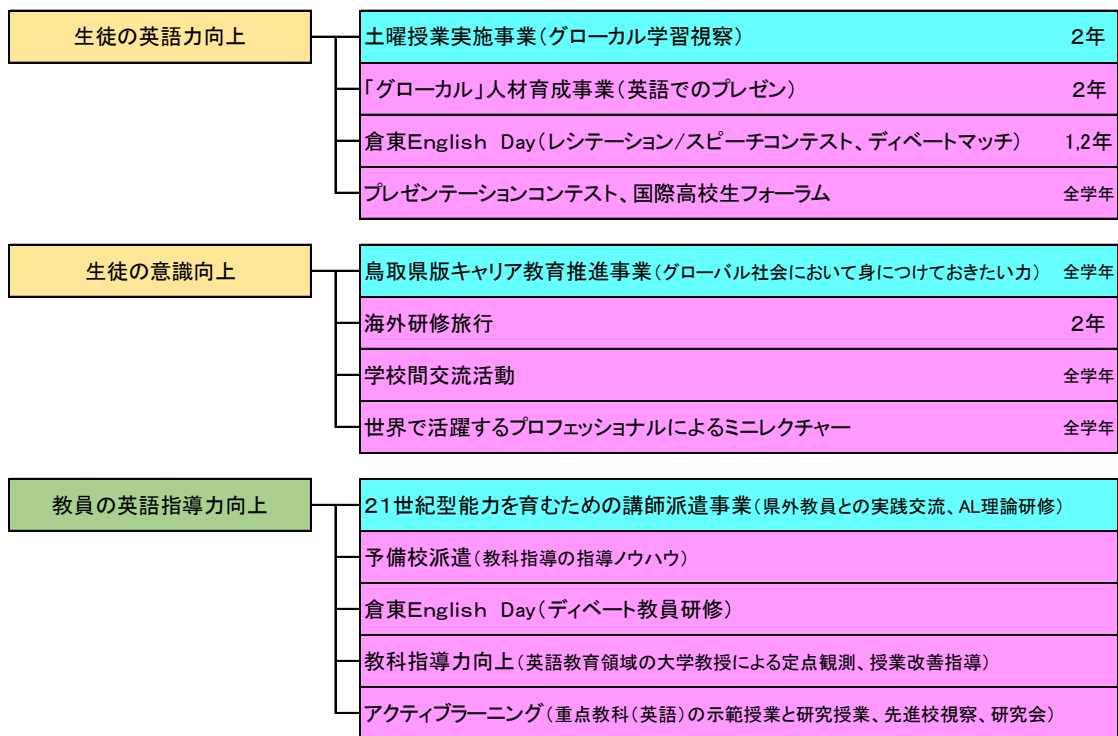
異文化に触れる機会を上記事業を通して積極的に増やし、現代社会の「多様性」に対応できる真のグローバル人材の育成を図る。

D世界で活躍するプロフェッショナルによるミニレクチャー

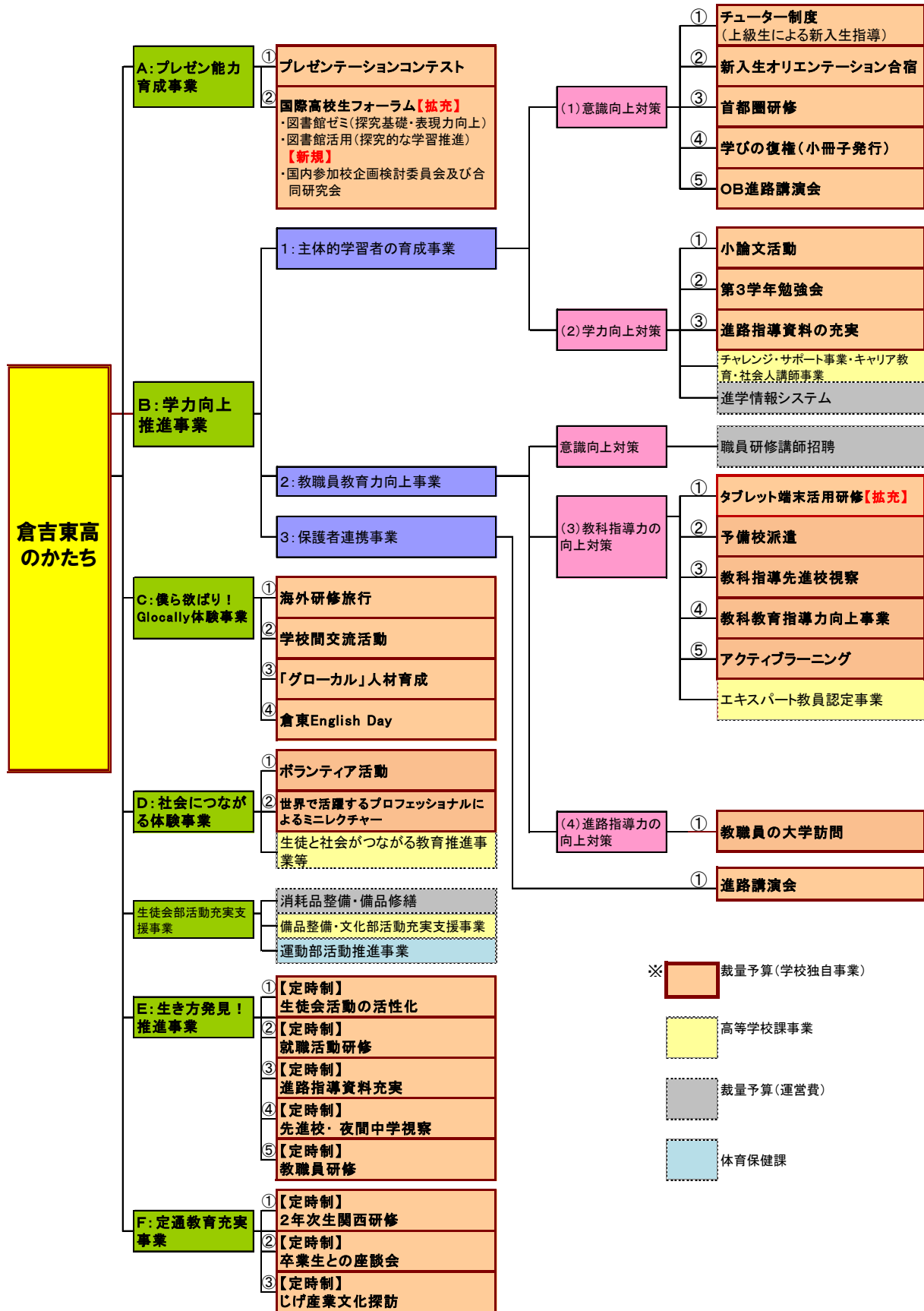
世界で活躍する企業人の英語による講義を通して、内向き安定志向の多い生徒の視野を拡げるとともに、コミュニケーションツールとしての英語の実態を体感させることで英語学習の動機付けを図る。

倉吉東高の英語教育

学校独自事業  
高等学校課事業



平成30年度 学校運営方針に基づく各種事業計画一覧



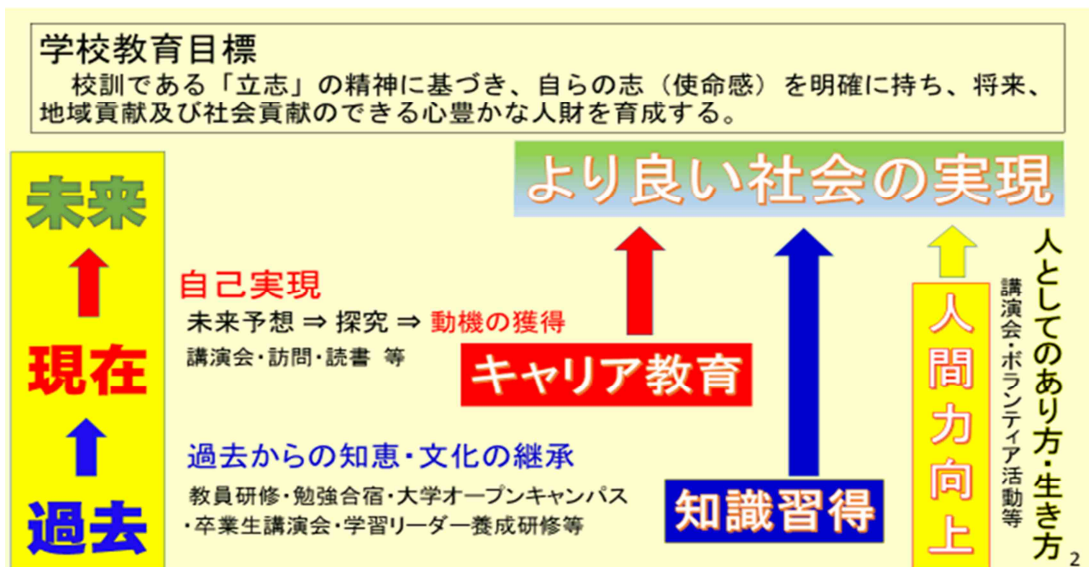
# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉西高等学校

重点項目	キャリア教育重点校	提出日	平成30年2月8日
------	-----------	-----	-----------

## 1 学校目標

校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志(使命感)を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人財を育成する。



## 2 重点項目に係る目標

### ○キャリア教育の充実(チャレンジグループ活動の深化)資料1

- ・社会的問題に関心を持ち、社会の一員であることを自覚させる。
- ・探究活動をとおして、社会的問題の解決に向けて必要となる能力を育成する。
- ・将来の生き方を前提とした進路指導を展開する。

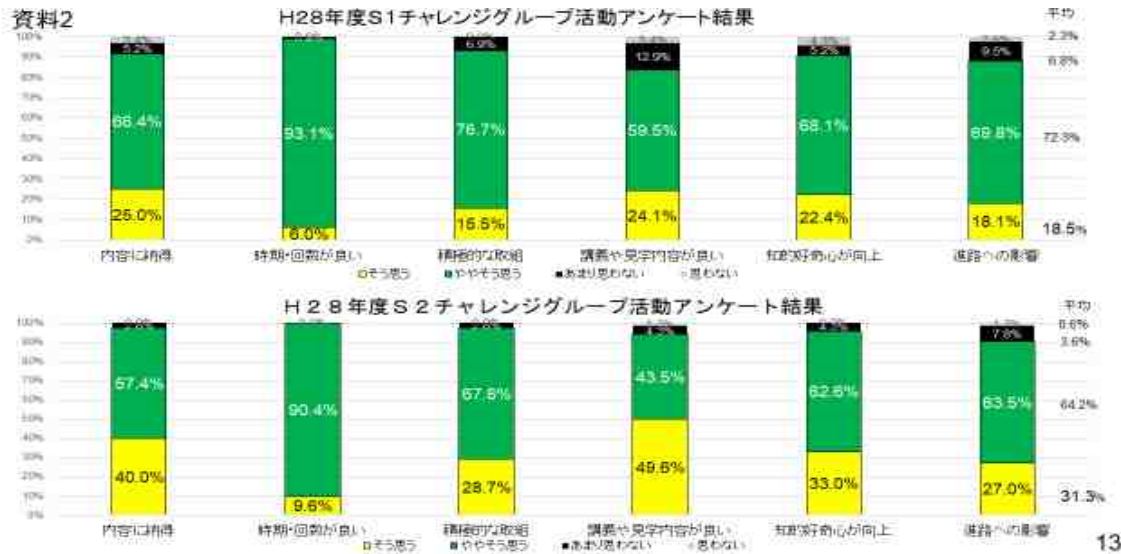
### ○将来を見越した生活習慣の確立

- ・社会や人とのつながりを意識した生活習慣を身につける。
- ・講演会等を通して人としての生き方を学ぶ。

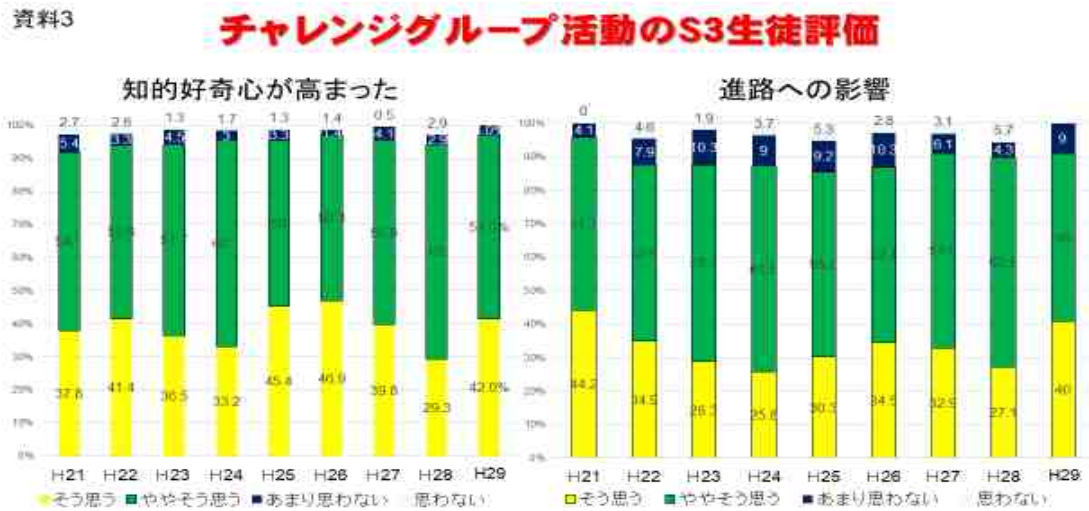


<数値目標>

○チャレンジグループ活動評価のための生徒アンケートの回答 **資料2**

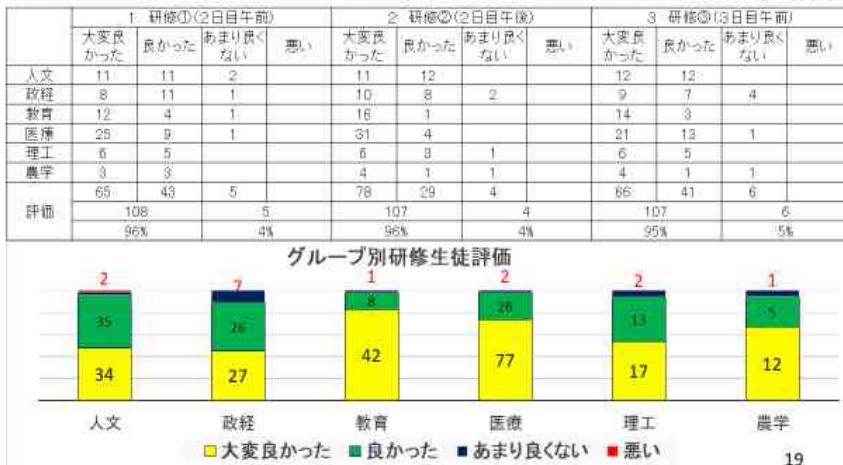


○「知的好奇心が高まった」「進路への好影響」がいずれも9割以上の評価 **資料3**

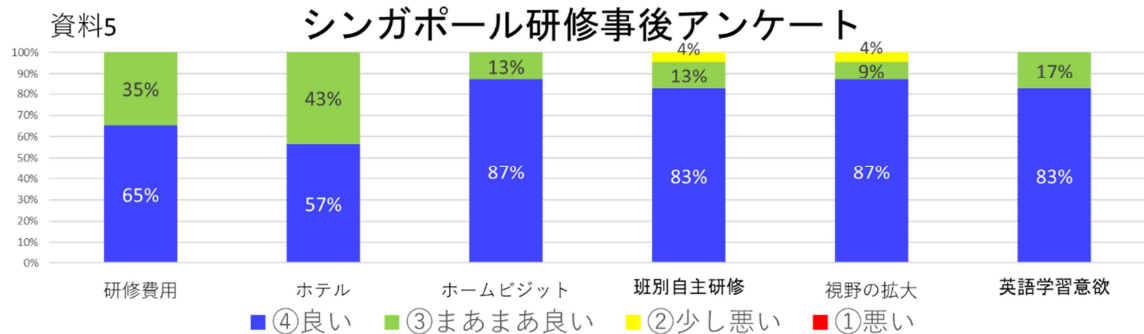


○フィールドワークイン関西アンケートの回答で「大変良い」「良い」の評価が8割以上 **資料4**

資料4 H29フィールドワークイン関西 グループ別研修生徒評価

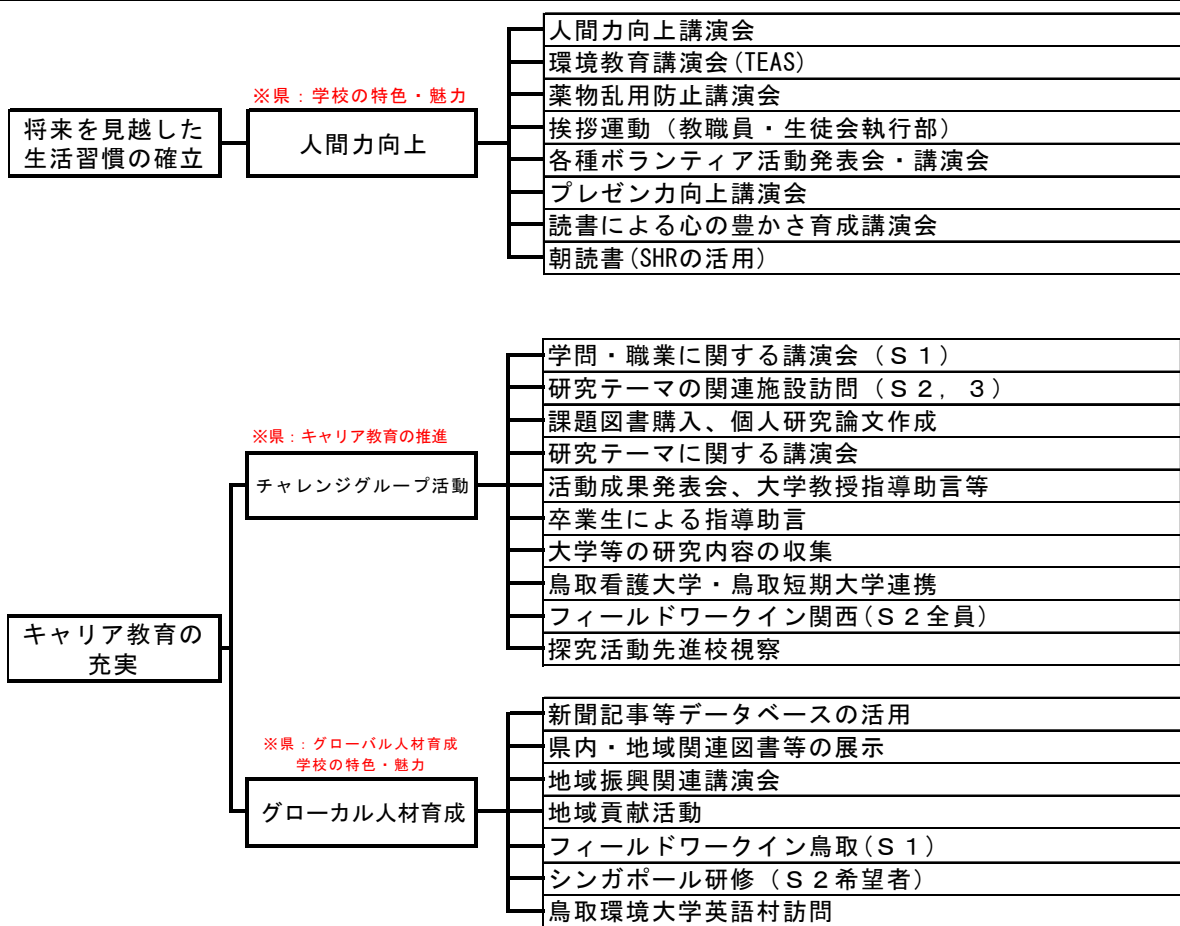


○シンガポール事後アンケートの回答で『班別自主研修』『視野の拡大』『英語学習意欲』の「大変良い」「良い」の評価が8割以上 **資料5**



○報告書の提出100%

### 3 事業計画(事業名、事業概要)



# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉西高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成30年2月8日
------	---------	-----	-----------

## 1 学校目標

校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人財を育成する。

## 2 重点項目に係る目標

- ・授業改善の取組（アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業の工夫）
- ・家庭学習時間の確保（学ぶことの意味の理解 主体的に学ぶ意識の高揚 「生活の軌跡」を活用した指導の充実 課題を与える学習から自主的な学習への転換）
- ・校外模試成績を含めた学力の向上（センター試験演習、課外、計画的な学習課題の提示）

<数値目標>

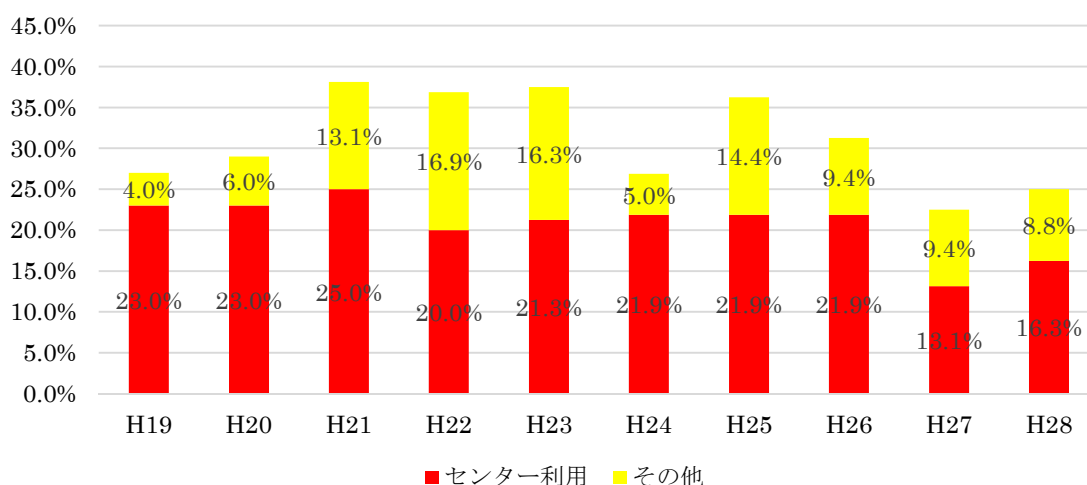
○校外模試やセンター試験の全員受験

（1年生は3科平均SS52以上、2年生は5科平均SS48以上かつ2月マーク模試全国平均90%超えを各教科25名以上、3年生は5科平均SS45以上）

○センター（CT）試験成績を利用した国公立大学合格者数（推薦Ⅱ、一般）30名以上

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
CT利用(人)	46	46	40	32	34	35	35	35	21	26
その他(人)	8	12	21	27	26	8	23	15	15	14
合格割合(%)	27.0%	29.0%	38.1%	36.9%	37.5%	26.9%	36.3%	31.3%	22.5%	25.0%

### 国公立大学合格者割合の推移



○授業外の学習時間1・2年生は1日平均3時間以上

3年生は高校総体までは1日平均3時間以上、6月以降は5時間以上

1日当たりの学習時間(時間)		平成27年度	平成28年度	平成29年度
1年	通年	2.3	2.1	2.4
2年	通年	1.5	2.7	2.3
3年	5月まで	1.5	1.7	2.4
	6月以降	3.1	3.4	5.2
全体		2.1	2.6	3.1

○生徒授業アンケートの各項目での評価が、80%以上または、前回数より10%以上向上

- 1 授業の中で、知識の暗記だけでなく、思考力や判断力、表現力を高めようと取り組んだ授業がありましたか。
- 2 授業中に生徒の話す機会・時間は増えましたか。
- 3 授業や学ぶことに対して、興味関心が高まり、学ぶ意欲が高まったと感じたことはありますか。

	1		2		3	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
H29	68.1%	31.9%	74.2%	25.8%	57.5%	42.5%
H28	66.1%	33.9%	69.8%	30.2%	50.9%	49.1%
H27	59.8%	40.2%	47.2%	52.8%	52.4%	47.6%

### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【高等学校課事業】

##### ※学力向上の推進

アクティブ・ラーニング推進事業（主体的・対話的・深い学びとICT活用授業）

※鳥取県版キャリア教育推進事業（「ようこそ高校へ」及び「教えて先輩」）

#### 【独自事業】

##### ※学力向上事業

主体的な学習姿勢 ・ 学力向上	大学教授等による進路講演会(生徒対象)、進路事例研究会(教員対象)
	進路情報誌等を購入し、生徒及び保護者へ進路情報を提供
	指導力向上教員研修(教科指導力向上研修、授業力向上フォーラムへ参加)
	校内授業研究会・大学教授による理論研修会・ICT活用(実践者の招へい)
	大山勉強合宿(S3希望者約100名)
	先進校視察(ICT活用、アクティブラーニング、進学指導等)
	卒業生による生徒及び保護者対象の進路講演会を開催
	長期休業課外授業
	鳥取大学、島根大学オープンキャンパス
	学習リーダー養成研修(パイオニアホーム企画 大学訪問、高校との交流等)
英字新聞を活用した読解力の養成及び編集者による講演会	

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉農業高等学校

重点項目	基礎学力向上重点校	提出日	平成30年1月29日
------	-----------	-----	------------

## 1 学校目標

農業教育をはじめとして、あらゆる教育の場において豊かな感性を育て、基礎基本を大切に知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成を図るとともに、地域社会に貢献できる人材の育成を目指します。

- ①基礎・基本の定着と学力の向上 ②基本的な生活習慣の確立 ③地域連携と特色ある教育活動  
④進路意識の向上と進路保障 ⑤コミュニケーション能力の向上

## 2 重点項目に係る目標

- (1) タブレットを用いた個別学習支援を行うことで基礎学力の定着や進路実現を図る。  
(2) 学習意欲を一層高め、校内基礎学力テストで追試指導を受ける生徒が減少する。

### <数値目標>

- (1) 3年生の進学希望者の80%が第一志望校に合格する (H29年度90%)  
(2) 1・2年生の校内基礎学力テスト合格者を90%にする  
(H29年度 1年89%、2年77%)

## 3 事業計画 (事業名、事業概要)

### 【独自事業】

事業名：寮生の学力向上と進路保障

事業概要：

- (1) 寮生の1年生全員と通学生の希望者がICT教材に年間加入する。  
(2) ICT教材 (自立学習支援プログラムクラッシー) による個別学習支援  
(3) 進路指導部の校内基礎学力テストに連動した寮課題の実施  
(4) 習熟度毎の自学自習用プリントの常備



# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉農業高等学校

重点項目	県外生徒募集重点校	提出日	平成30年1月29日
------	-----------	-----	------------

## 1 学校目標

農業教育をはじめとして、あらゆる教育の場において豊かな感性を育て、基礎基本を大切に知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成を図るとともに、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。

1. 基礎・基本の定着と学力の向上 2. 基本的生活習慣の確立 3. 地域連携と特色ある教育活動 4. 進路意識の向上と進路保障 5. コミュニケーション能力の向上

## 2 重点項目に係る目標

1. 各科の魅力づくりや地域との連携・発信、資格取得等を進め、農業の魅力を発信する。
2. 魅力ある授業内容や広大な施設等を知ってもらうため、異世代との交流や学校施設の開放を進め、地域交流などを積極的に行い地域に本校の理解を深めてもらう。
3. 中学生一日体験入学、中学校教員農業体験を実施すると共に、大阪・東京で実施される移住定住イベントに参加し、県外にも本校をアピールする。

<数値目標>

1. 資格取得の合格率が60%以上（H28年度 52%）
2. 難易度の高い資格の合格率向上（H29年度 農業技術検定2級14%、測量士補28% 危険物取扱者乙種4類50%、アグリマイスターシルバー1名）
3. 異世代との交流年間20回以上実施（H29年度 乗馬交流20回、田んぼの学校4回、花と野菜交流3回 合計27回）
4. 学校施設開放に30名以上参加（H29年度 41名）
5. 中学生体験入学200名以上（H29年度 206名）、中学校教員農業体験20名以上参加（H29年度 学校説明26名、農業体験19名、授業参観16名）

## 3 事業計画（事業名、事業概要）

### 【高等学校課事業】

首都圏及び関西圏で開催される移住定住相談イベント（公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構主催）及び県外生徒募集個別相談会（県教育委員会主催）への参加

### 【独自事業】

事業名：農業の魅力づくり発信事業（全学年対象）

事業概要：

羊の活用や新商品の開発（食品）、アンテナショップへの出店、舗装実習等を通して各科の魅力づくりを行う。併せて資格取得を進め農業を学ぶ意欲を高める

事業名：開かれた学校づくり推進事業（2・3年対象）

事業概要：

保育園、小学校、児童センター、地域の祭り、地域の人、高齢者、障がい者等をお招きし馬や水田、花や野菜、食品加工を題材に交流し学校を地域交流の場として、生徒のコミュニケーション能力向上や地域の農業理解促進につなげる

事業名：定員充足推進事業

事業概要：

中学生一日体験入学、中学校教員農業体験を実施すると共に、大阪・東京で実施される移住定住イベントに参加する

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉農業高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成30年1月29日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標
農業教育をはじめとして、あらゆる教育の場において豊かな感性を育て、基礎基本を大切にして知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成を図るとともに、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。 1. 基礎・基本の定着と学力の向上 2. 基本的生活習慣の確立 3. 地域連携と特色ある教育活動 4. 進路意識の向上と進路保障 5. コミュニケーション能力の向上
2 重点項目に係る目標
1. 県版SPH事業を推進する。特に長期インターンシップ、県外先進地農家留学研修、6次化プロデューサー認証、就農促進事業、大学との連携、資格取得等の充実を図る。 2. 2年次インターンシップを通して早期に進路意識を持たせ、進路意識の高揚を図る。 <数値目標> 1. スーパー農林水産業士の3名以上の認定（H29年度 1名） 2. 生物科の農業系大学等の農業関連進学率が全進学希望者の50%以上（H29年度 66%） 3. 環境科、食品科の農業系大学等の進学率が全進学希望者の30%以上（H29年度 27%） 4. 農業及び学科関連産業への就職率が全就職希望者の50%以上（H29年度 40%） 5. 資格取得の合格率が60%以上（H28年度 52%） 6. 難易度の高い資格（アグリマイスター、日本農業技術検定、測量士補等）の合格者数向上（H29年度 アグリマイスター1名、日本農業技術検定2級1名、測量士補2名、危険物取扱者乙種4類3名）
3 事業計画（事業名、事業概要）
<b>【高等学校課事業】</b> 事業名：県版SPH事業（全学年対象） 事業概要： （1）長期インターンシップ 2・3年生で合計20日間、パートナーシップ農家で就業体験を実施 （2）県外先進地農家留学研修 夏期休業中に北海道等の県外先進農家で農業研修を実施 （3）食の6次産業化プロデューサー認証 3年間でレベル2まで取得 （4）大学との連携 鳥取大学及び龍谷大学の各農学部を訪問し、施設見学や授業体験を実施 （5）地域連携担当教員の配置 （6）教員研修の推進 <b>【独自事業】</b> 事業名：就農促進事業（全学年対象） 事業概要： 地域の農家を視察し農業青年と懇談を行い、知り得た知識や技術などに基づいて将来の農業経営等を考察し発表する

事業名：資格取得（全学年対象）

事業概要：

大型特殊免許・室内園芸装飾・造園技師等の資格取得、資格取得関連書籍購入

事業名：インターンシップ（2年生対象）

事業概要：

各学科の教科内容に通じた作業現場での実習を実施

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉総合産業高等学校

重点項目	スポーツ・文化芸術活動重点校	提出日	平成29年12月8日
------	----------------	-----	------------

## 1 学校目標

部活動の振興をとおして、本校の教育目標の柱である「誠実な心とたくましく生きる力」「自主・自律の態度」「思いやりと友情」を涵養し、生徒の個性の伸張や人間性の育成と学校の活性化を促進する。

## 2 重点項目に係る目標

部活動（運動部・文化部）への加入率と満足度を高める。

部活動のための備品・環境の整備を図る。

競技力向上対策事業（県体協）強化指定部の部員数の拡充及び部員相互の指導・連携を図る。

陸上競技(男女)・カヌー(男女)・自転車競技(男女)・レスリング(男)・ソフトボール(女)

本校のマスコットキャラクター「そうピィ」の着ぐるみを製作し、各部の大会やイベントで活用し、本校部活動のPR活動を行う。

### <数値目標>

生徒の部活動加入率 95%以上 (H29…94%)

学校生活に関するアンケート

生徒5-5「自分は、部活動に積極的に取り組んでいる」AB評価 85%以上 (H29…81%)

保護者3-5「本校は、部活動に熱心に取り組んでいる生徒が多いと思う」AB評価

95%以上 (H29…96%)

教職員15「本校は、部活動に熱心に取り組んでいる生徒が多い」AB評価 90%以上 (H29…93%)

部員数 ※ ( ) 内はH29部員数

陸上競技30(26) カヌー25(20) 自転車競技20(16) レスリング10(6) ソフトボール15(12)

中国大会への参加人数 延べ270人(H29 13部256人)

全国大会への参加人数 延べ100人(H29 7部91人)

## 3 事業計画（事業名、事業概要）

### 【高等学校課事業】

- ・文化部校外・合同練習会支援事業
- ・備品（郷土芸能備品・楽器等）整備事業

### 【運営費対応】

- ・中学生の部活動体験

強化指定部のうち中学校にはない自転車競技、カヌー、レスリング部の部員数を増やすため、夏季休業中に中学生を対象とした部活動体験を行い、未体験の競技の楽しさを体験させ、競技の普及と競技者の開拓を図るとともに、部員生徒の指導力もあわせて促進する。

指導は本校顧問・部員が行う。

経費については、運営費から充当する。

- ・ビニールハウス練習場の整備

本校には屋内練習場がないため、現在屋外競技は荒天時や積雪時は屋外での練習ができない状況である。

そういう状況でも練習を継続し、天候に恵まれた県外の学校と戦えるようビニールハウス練習場を整備する。

経費については、運営費の執行状況を見ながら、年次計画で充当する。

- ・「そうピィ」着ぐるみの製作

運動・文化部の大会やイベントで着ぐるみを活用し、中学生やその保護者を含む校外の方々へ本校の部活動のPR活動を行う。

経費については、運営費の執行状況を見ながら充当する。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 倉吉総合産業高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成30年2月5日
------	-----------	-----	-----------

## 1 学校目標

将来職業人として地域で活躍し、地域に貢献できる人材を育成することを目標として、専門分野に関する学習や資格取得、部活動との両立、進路の実現等に日々努力している。また、地域との交流の中で、コミュニケーション能力や豊かな人間性の育成にも努めている。

## 2 重点項目に係る目標

- ・専門的な知識、技能、職見を有される地域の社会人を講師として迎えて、ショップ経営のノウハウを身に付けさせ、ビジネスに必要な業務を、合理的に行う能力を育成する。
- ・各分野に優れた知識や技能をもつ社会人講師・大学教員を活用することにより、生徒の学習意欲の向上を図り、職業観、勤労観を育成する。
- ・一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成する。
- ・職業体験をとおして職業や将来設計について考えさせ、主体的な職業選択能力や職業意識を育成するとともに、挨拶・言葉遣い・礼儀・マナーなどを学びコミュニケーション能力を高める。また地元・見学企業を見学し進路選択における判断材料とする。
- ・地域と連携した課題研究を実施し、地域との関わり合いを持ちながら、社会の変化に対応できる企画能力や実践能力を育成する。
- ・ものづくり教育を推進することで、技能を高め、地元企業に求められる人材を育成する。
- ・教員が実際に企業を訪問したり、企業で研修することで指導力向上を図る。

### <数値目標>

年内就職内定 100%(H29 100% H28 99% H27 99%)

卒業1年後の離職率 8% 以下(H27 8.51% H26 9.56% H25 7.76%)

#### 資格取得

機械加工旋盤作業検定3級 10名以上(H28 6名)

第1種電気工事士 15名以上(H28 11名)

全商簿記実務検定1級 20名以上(H28 17名)

家庭科技術検定1級3種目合格 10名以上(H28 6名)

推薦・一般入学者選抜における各科の募集定員の充足。H29(不足なし) H28(機械3)

H27(機械5 電気3) H26(機械3 ビジネス3 生活1 情報3) H25(電気3 生活3)

### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【高等学校課事業】

- ・土曜授業等実施事業  
    チャレンジショップ「くらそうや」
- ・外部人財活用事業  
    社会人講師活用事業（各科及び芸術科）  
    県立高校・大学教員の教員交流事業（電気科）
- ・キャリア塾  
    進路講演会（各学年）  
    先輩に学ぶ

#### 【独自事業】

- ・職業観の育成事業  
    インターンシップの推進（機械科・電気科・生活デザイン科）  
    インターンシップ・デュアルシステムの充実（ビジネス科）  
    長期インターンシップの推進（電気科）  
    県外企業研修  
    安全教育
- ・地域との交流支援事業  
    チャレンジショップ「くらそうや」・くらそうサロン・くらそうビジネスセミナー  
    中学生工作教室  
    ネットワーク会議
- ・ものづくり支援事業  
    マイコンカーの製作  
    板金加工における技能指導  
    普通旋盤作業における技能指導  
    電気工事についての技能指導
- ・教員指導力向上事業  
    教員の進路開拓力育成  
    教員の企業体験

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取中央育英高等学校

重点項目	スポーツ・文化芸術活動重点校	提出日	平成30年2月2日
------	----------------	-----	-----------

## 1 学校目標

克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成

- (1) 高い志と自ら学ぶ力
- (2) 確かな学力と公共の精神
- (3) 自らを律する力と他を思いやる心
- (4) 率先して行なう勇気と協力して成し遂げる知恵
- (5) 健やかな体と感動する心

## 2 重点項目に係る目標

本校は県内でも数少ない体育コース設置校であり、その体育コースの生徒を中心として部活動での全国レベルの活躍や学校の活性化を図ってきた。

これまで体育コースの取組として、人間力の向上を中心とした事業を行ってきたが、競技力の一層の向上を目指した事業を取り入れることにより、競技者としての意識と技術の向上を図るとともに、指導する教職員（運動部指導者）においても指導力の向上を目指す取組を行い、体育コースや部活動の更なる充実を図り、各部活動の中心選手として全国大会で活躍する生徒を増やす。

### <数値目標>

陸上…全国大会入賞5名以上、全国総体出場10名以上、全国高校駅伝、国体等全国大会出場

水球…全国大会上位入賞、全国総体、国体、全日本ジュニア選手権へ出場15名エントリー

レスリング…全国大会入賞5名以上、全国総体、国体、全国選抜へ出場7名エントリー

山岳…全国大会上位入賞、全国選抜、国体等へ出場4名エントリー

バレーボール男子…全国大会入賞、全国総体、全国選手権等へ出場18名エントリー

ソフトボール男子…全国総体、全国選抜等へ出場18名エントリー

バスケットボール女子…全国総体、全国選抜等へ出場12名エントリー

バドミントン…全国総体、全国選抜等へ出場団体5名エントリー

野球…甲子園、選抜大会出場へ出場18名エントリー

競技力に優れた県外中学生入学者数 1学年20名

### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【高等学校課事業】

- ・外部人財活用事業（社会人講師活用事業）

##### （1）ねらい

スポーツにおける栄養の必要性・有効性について系統的に学ぶとともに、身体諸器官の仕組みや効率的な運動技能の習得について系統的な実習を行うことにより、競技力向上のきっかけをつくる。

##### （2）事業内容

ア トレーナーマスター「スポーツと栄養」

1年次に5時間行う（講師：清水病院栄養士を予定）

イ トレーナーマスター「スポーツとマッサージ」

2年次に3時間行う（講師：大森クリニックトレーナーを予定）

#### 【独自事業】

##### 1 ウェイトトレーニング講習

###### （1）ねらい

ア 一流のウェイトトレーニング指導者の指導を受け正しい動きを学ぶことで、身体作りの見直しを図り、自身のコンディショニングを考える。

イ フィジカル面を向上させ、一層のパフォーマンス向上を図る。

ウ 怪我をしない身体を作り、メンタル面での向上につなげる。

###### （2）事業内容

体育コース生徒を対象に2時間講習を年10回開催

①トレーニング目標・計画（2h）

②筋力トレーニング（6h）（理論・実践・競技別活用法と測定）

③持久力・スタミナトレーニング（6h）（理論・実践・競技別活用法と測定）

④柔軟性トレーニング（4h）（理論・実践・競技別活用法）

⑤調整力トレーニング（2h）（理論・実践）

（3）場 所 本校トレーニング場

（4）対 象 体育コース1年生、教職員

##### 2 トップアスリート講演会

###### （1）ねらい

各部活動は、全国レベルのチームや選手と合同練習、合宿等を重ね切磋琢磨しているところではあるが、その場面において全国トップ選手及び指導者から話を聞く機会は少ない。上位大会での活躍のためには、選手と教職員が日頃から高い意識ときめ細かな生活を送る必要がある。その考え方や方法を聞き、「競技生活の転機」となる機会を得たい。具体的には、選手の運動スキルや意欲の向上、健康管理に関する知識及び実践方法の習得、指導者の指導力向上を目指す。



(2) 事業内容

1 回に 2 時間の講演会を年 2 回開催

(3) 場 所 本校体育館、多目的教室

(4) 対 象 体育コース 1～3 年生徒、教職員

3 トップアスリート養成事業

(1) ねらい

ア 全国トップレベルの選手と活動することによって、競技力の向上やアスリートとしての意識付けができる。

イ 栄養学の指導を受けることでアスリートとして食事の重要性、生活習慣の見直しを図ることができる。

ウ スポーツを行う上で必要なコンディショニングの管理方法を学び、体のケアの方法やパフォーマンス向上について考えることができる。

エ 集団生活を通してクラスの団結力を深めるとともに、社会生活における望ましい能力や態度を養う。

(2) 事業内容

①期 日 平成 30 年 10 月中旬 2 泊 3 日

②日 程 1 日目 午後 大学説明及び講義（トップアスリートとしての意識）

夕方 栄養学講座及び講座を活かしての夕食会

夜 講演会及び反省（振り返り）

2 日目 午前 柔道整復師養成の演習授業見学

午後 大学施設見学・部活動見学及び合同練習会

夜 山本清人先生（本校元職員、現 IPU ソフトボール監督）講演会

3 日目 午前 アスレティックトレーナー養成の演習授業見学

研修の総括及びまとめ

(3) 場 所 環太平洋大学（宿泊：大学研修所）

(4) 対 象 体育コース 1 年生及び教職員

4 指導者研修（コーチングを学ぶ）

(1) ねらい

ア 専門の指導者に部活指導の様子を観察してもらい、その後コーチングについて助言をいただき、スキルを向上させる。

イ コーチングの技術を向上させ、より一層選手の能力を引き出し、競技力向上につなげる。

(2) 事業内容

教職員（運動部顧問）を対象に年 2～3 回、試合準備期、試合期、鍛錬期に特別指導を開催する。

①助言者 団体競技、個人競技を中心に高校、大学、実業団で指導実績のある方

- ②概要 各顧問の指導を観察してもらい、その後、一斉に研修を受ける。さらに、助言者の該当種目の教職員（運動部顧問）は指導、助言を受ける。
- (3)場所 各運動部活動場所となる体育館、グラウンド、プール、野球場
- (4)対象 運動部生徒及び教職員

**【その他事業】**

- ・競技力に優れた県外中学生の勧誘

(1)ねらい

緑風寮をもつ本校の特徴を生かし、県外から競技力の優れた中学生の本校への入学を促すことにより、県内生徒との切磋琢磨を通じて当該部活動の活性化を図り、全国大会で活躍する選手の育成を図る。

(2)事業内容

- ア 強化指定を受けている運動部等の顧問による県外大会の視察
- イ 県内移住を推進する知事部局との連携（「鳥取来楽暮カフェ」への参加など）

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 鳥取中央育英高等学校

重点項目	県外生徒募集重点校	提出日	平成30年2月13日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標	
克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1) 高い志と自ら学ぶ力 (2) 確かな学力と公共の精神 (3) 自らを律する力と他を思いやる心 (4) 率先して行なう勇気と協力して成し遂げる知恵 (5) 健やかな体と感動する心	
2 重点項目に係る目標	
本校は県内でも数少ない体育コース設置校であり、その体育コースの生徒を中心として部活動での全国レベルの活躍や学校の活性化を図ってきた。 これまでも体育コースの推薦入学者県外募集定員枠において、競技成績の優秀な生徒の確保を行ってきたが、緑風寮をもつ本校の特徴を生かし、県外募集定員枠の拡大とともに、競技力に優れた生徒の募集に力を入れ、スポーツを中心とした学校の更なる活性化と全国大会で活躍する生徒の一層の増加を目指す。  競技力に優れた県外中学生入学者数 1学年20名 ※強化種目 陸上競技・水球・レスリング・山岳・バレーボール男子・ソフトボール男子・バスケットボール女子・野球	
3 事業計画（事業名、事業概要）	
【独自事業及びその他】 1 競技力に優れた県外中学生の勧誘 (1) ねらい 緑風寮をもつ本校の特徴を生かし、県外から競技力の優れた中学生の本校への入学を促すことにより、県内出身生徒との切磋琢磨を通じて当該部活動の活性化を図り、全国大会で活躍する選手の育成を図る。 (2) 事業内容 ア 強化指定を受けている運動部等の顧問による県外大会の視察 イ 県内移住を推進する知事部局との連携（「鳥取来楽暮カフェ」への参加など） ウ 高等学校一日体験の実施 2 競技力向上を中心とした学校の魅力化 ※事業の詳細については、スポーツ・文化芸術活動重点校事業計画書に記載。 トップアスリート養成事業、トップアスリート講演会及びウエイトトレーニング講習	

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 米子東高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成30年2月5日
------	---------	-----	-----------

## 1 学校目標

別紙「平成29年度学校目標」21世紀を担うリーダーの育成  
 <人間理解のできる生徒の育成><課題意識のある生徒の育成><自己表現のできる生徒の育成>  
 (1) 学力向上  
 (2) 心の教育の推進と健康、体力の増進  
 (3) 保護者・地域・県民に信頼される教育活動の展開

## 2 重点項目に係る目標

ア 学びの質の向上と学びの集団づくり

- (ア) L I T Eから知識構成型ジグソー法までアクティブラーニング（主体的、対話的で深い学び）の実践による授業改革の推進
- (イ) 日々の授業参観、大学入試問題の研究、授業アンケート等を通じた授業力の向上
- (ウ) 習熟度別授業の工夫と生徒個々のレベルに応じた指導の充実

イ 課題探究的な学びとスーパーサイエンスハイスクール取組みの推進

- (ア) 科学的探究心の育成：科学に対する関心を高め、課題解決に向けた技能の習得と科学的思考力・判断力及び表現力を育成する
- (イ) 情報発信力の育成：言語技術教育等を通して論理的に表現し、多様な手法、言語により発信する力を育成する
- (ウ) 地域社会への参画や社会貢献への能動的態度を育成する

ウ 進路指導の充実

- (ア) 個別面談の充実を図り、明確な進路意識を持ち自立した生徒を育成する
- (イ) 進路指導部、学年団、各教科が一体となり、3年間を見通した指導を行う
- (ウ) 特別時間割による授業、各種講習、基礎セミナー等の計画的・効果的な実施

<数値目標>

- ・国公立大学合格200人以上（うち現役合格160人以上）

※過去3年の実績

	平成28年度		平成27年度		平成26年度	
	合計	内過卒	合計	内過卒	合計	内過卒
国立大学計	191	51	158	39	201	56
公立大学計	29	10	28	8	36	10
国公立大学計	220	61	186	47	238	66

- ・難関大学（旧帝大、一橋大学、東京工業大学、神戸大学及び医学科・歯・薬・獣学部）合格70人以上

※過去3年の実績

	平成28年度	平成27年度	平成26年度
計	55 (40)	56 (24)	54 (27)

( ) は医学科・歯・薬・獣学部の内数

### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【高等学校課事業】

#### 1 学校連携チャレンジ・サポート事業

##### (1) 楽しく学ぶ科学教室

中学生が高校で普段行う科学実験を体験

##### (2) 科学を創造する人財育成事業

最先端の科学に関する講演、数学コンテストや物理・化学・生物・地学・家庭・情報に関する実験等を行う

#### 2 土曜授業等実施事業【ふるさと鳥取学講座】【一流から学ぶ】

日頃学習できない、ふるさと鳥取について学んだり、専門家から指導を受ける

#### 3 外部人財活用事業（県立高校・大学教員の教員交流事業）

鳥取大学教授による生命科学コースへの講義

#### 【独自事業】

#### 1 論理的思考力・表現力育成事業

言語技術教育研修派遣、教科・小論文研修派遣、英語教育研修派遣

#### 2 進路指導充実事業

進路講演会、進路指導資料の整備、東大オープンキャンパス

#### 3 アクティブラーニング推進事業

アクティブラーニング教員研修会の開催、県内外のエキスパート教員との授業交流、東大 CoREF での学習科学セミナーの受講者の研修派遣、SSH 先進校の視察等

#### 4 世界に学ぶ Tickets to the World 事業

海外留学・海外体験の生徒や留学生による報告会を図書館で開催

国内に留学中の海外大学生及び大学院生との討論及びワークショップ

#### 5 生命科学コース「オリエンテーション合宿」

入学当初、学習方法の習得と仲間作り

#### 6 生命科学コース「探究的学習」

第1学年は岡山大学で理・工・農・環境への興味関心の育成

第2学年は鳥取大学で生命科学への興味関心の育成

#### 7 「先端技術・最新知見に学ぶ」研修事業

学習会・学会等への教員派遣

発表会・学会等への生徒参加

京都大学 iPS 細胞研究所等への訪問

# 平成29年度 学校目標

## 21世紀を担うリーダーの育成

未知の状況にも対応できる科学的リテラシーを育成し、課題を明確にして自らが考えたことを発信する力と学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性の涵養を図り、世のため人のため国際社会や地域社会に貢献しようとする志を高める

### ○人間理解のできる生徒の育成

人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものとの存在を認めながら共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する

### ○課題意識のある生徒の育成

知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に課題意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する

### ○自己表現のできる生徒の育成

他人の意見に対しては素直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する

## (1) 学力向上

### ア 学びの質の向上と学びの集団づくり

(ア) L I T Eから知識構成型ジグソー法までアクティブラーニング（主体的、対話的で深い学び）の実践による授業改革の推進

(イ) 日々の授業参観、大学入試問題の研究、授業アンケート等を通じた授業力の向上

(ウ) 習熟度別授業の工夫と生徒個々のレベルに応じた指導の充実

### イ 課題探究的な学びとスーパーサイエンスハイスクール取組みの推進

(ア) 科学的探究心の育成：科学に対する関心を高め、課題解決に向けた技能の習得と科学的思考力・判断力及び表現力を育成する

(イ) 情報発信力の育成：言語技術教育等を通して論理的に表現し、多様な手法、言語により発信する力を育成する

(ウ) 地域社会への参画や社会貢献への能動的態度を育成する

### ウ 進路指導の充実

(ア) 個別面談の充実を図り、明確な進路意識を持ち自立した生徒を育成する

(イ) 進路指導部、学年団、各教科が一体となり、3年間を見通した指導を行う

(ウ) 特別時間割による授業、各種講習、基礎セミナー等の計画的・効果的な実施

## (2) 心の教育の推進と健康、体力の増進

### ア 自主的・自律的態度の育成

(ア) 規範意識（挨拶、服装、交通安全、時間を守る等）を高める

(イ) マナーやルールを守り、品格のある言動がとれるようにする

(ウ) 生徒会・学級活動を充実させ生徒の自主・自立の心を育むとともに、身近な取組みから主権者意識を高める

(エ) 環境教育(T E A S)の推進を図るとともに、新校舎にふさわしい校内外の美化、整理整頓に努める

### イ 部活動の奨励

(ア) 部活動をとおして健全な心身と良好な人間関係を構築する力を育成する

### ウ 人権教育の推進

(ア) さまざまな教育活動の中で人権尊重の意識を醸成する

### エ 生徒支援の充実

(ア) 教職員間の連携と共通理解を深め、組織的な生徒支援を行う

(イ) 研修会等をとおして教師としての力量の向上を図る

### オ 価値観や生き方に関わるような体験的な学びの推進

(ア) 異世代・異文化交流に積極的に取り組む

(イ) 読書活動の充実を図る

(ウ) ボランティア活動をはじめ学校内外の多様な取組みへの積極的な参加を促す

## (3) 保護者・地域・県民に信頼される教育活動の展開

### ア P T A活動の推進

### イ ホームページの充実と地域への発信

### ウ 個人情報管理の徹底等コンプライアンスの遵守



# 米東の教育

## 21世紀を担うリーダーの育成

### 自立

- 人間理解のできる生徒の育成
- 課題意識のある生徒の育成
- 自己表現のできる生徒の育成

### 品格

#### 学力向上

- 国公立大学合格200人以上
- 難関大学70人以上
- 現役合格160人以上

#### 心の教育の推進 健康・体力の増進

- 遅刻者数(年間) 前年比10%減
- 問題行動件数0件
- 運動部：各大会ベスト4以上
- 文化部：中国大会出場

#### 保護者・地域・ 県民に信頼される 教育活動の展開

- PTA活動の推進
- ホームページの充実と地域への発信
- 個人情報管理の徹底等  
コンプライアンスの遵守

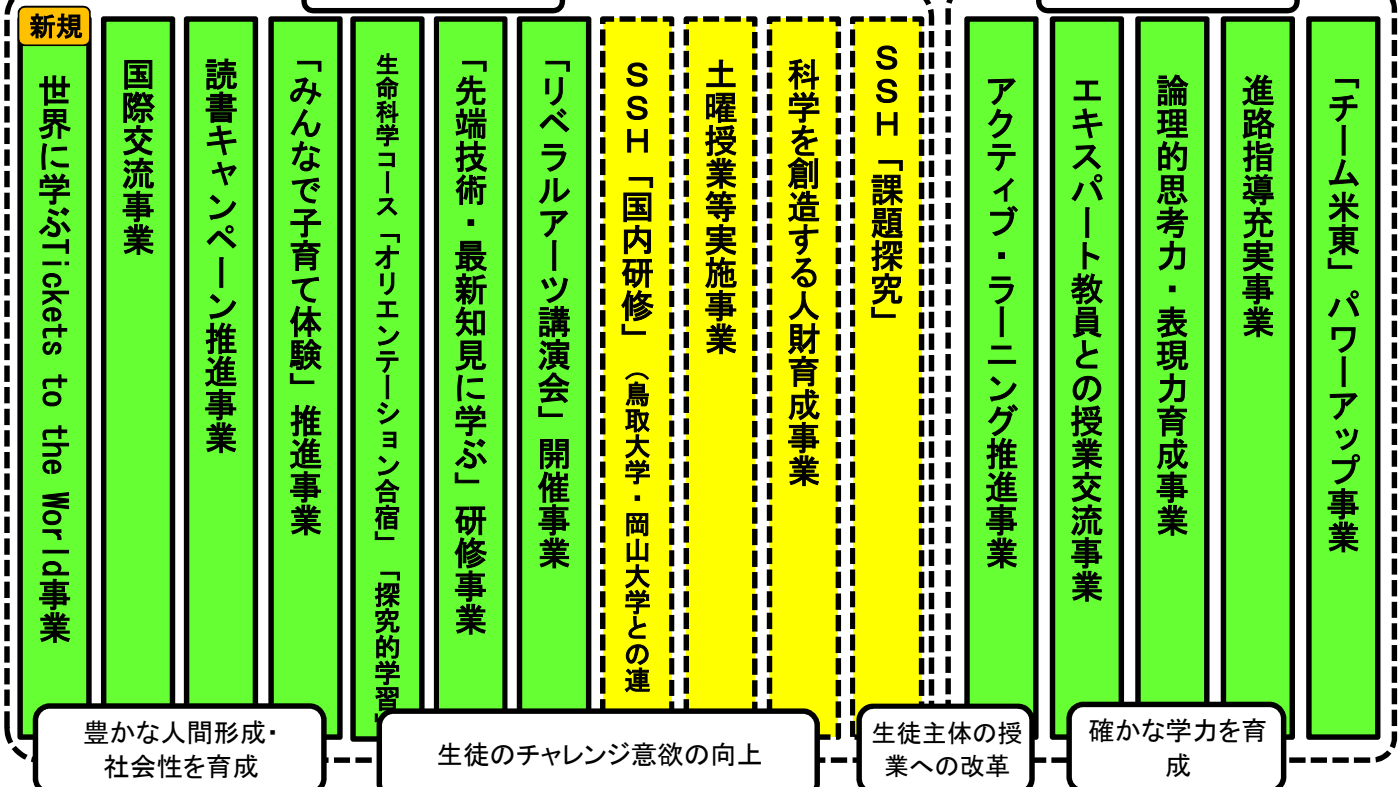
- 進路指導の充実
- 課題探究的な学びと  
ハイスクール取組みの  
推進
- 学びの質の向上と学び  
の集団づくり

- 部活動の奨励
- 人権教育の推進  
生徒支援の充実
- 価値観や生き方に関わ  
る体験的な活動の推進
- 自主的・自律的態  
度の育成

- 個人情報管理の徹底等  
コンプライアンスの遵守
- PTA活動の推進
- ホームページの充実と  
地域への発信

### 生徒の学びの場

### 教師の学びの場



# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 米子西高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成30年2月5日
------	---------	-----	-----------

1 学校目標
質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知、徳、体、志」のバランスのとれた人材を育成する
2 重点項目に係る目標
<p>自己実現を可能にする学力の向上（高い志の育成、質の高い授業の実践、学習習慣の確立、国公立大学に合格できる力をつけた生徒の増加）</p> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにおける生徒の達成感に関する肯定的な回答が70%以上（H29生徒アンケートでは約60%）、教師の指導力に関する肯定的な回答が80%以上（同約60%）になる</li> <li>全教員でアクティブラーニングに取り組む</li> <li>家庭学習時間調査で次の目標を達成する <ul style="list-style-type: none"> <li>平日：1・2年生2時間以上、3年生3時間以上</li> <li>休日：1・2年生4時間以上、3年生5時間以上</li> </ul> </li> </ul> <p>※H29.9月調査の1日平均（休日も含め）では1・2年生約1時間50分 3年生約3時間30分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1月進研模試で偏差値50以上の生徒数が1年生で160人以上（H29.11月模試で75名）、2年生で140以上（同模試で108名）</li> <li>国公立大学および難関私立大学の現役合格者が100人以上（国公立大学75人以上、難関私立大学25人以上）となる</li> </ul> <p>最近3年間の合格者数（一部抜粋）</p> <p>国公立大学：平成26年度52名、平成27年度53名、平成28年度59名 私立大学：青山学院3名、法政2名、明治3名、早稲田2名、同志社6名、立命館20名、関西17名、関西学院10名（3年間の延べ合計数）  </p>
3 事業計画（事業名、事業概要）
<p><b>【高等学校課事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師派遣事業 <p>平成29年度に講師派遣事業で行った全教員でのアクティブラーニングを取り入れた授業および県外講師を招いての研究授業、示範授業(3回)を平成30年度も学校独自事業で行い、研究授業および示範授業に合わせて県外から指導助言者を招いて職員研修を行うことで、アクティブラーニング型授業の一層のブラッシュアップを図る。また、研究授業あるいは示範授業でICTを活用したアクティブラーニング型授業を行う</p> </li> <li>土曜授業等実施事業 <p>年間23回程度鳥取大学医学部の大学生等を招聘して、土曜日に学校を開放し、自学・自習形式の学習会を午前中3時間半程度開催する</p> </li> </ul> <p><b>【独自事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小論文・教科指導力向上 <p>外部講師による生徒を対象とした小論文研修および大手予備校に教員を派遣して研修(アクティブラーニング研修含む)を行う</p> </li> <li>長期休業中の学習会 <p>夏季休業中の5日間外部施設を利用した1日6時間以上の自学自習を体験する事で、計画的・主体的に学習する態度の育成を目指す</p> </li> </ul>



- 英語力向上事業

英検2級以上の取得を目指した英検受験講座および英検受験のための示範授業と授業計画をどのように構築するのかを研究する。また生徒の英語力向上で先進的な研究をしている方を外部から講師として招き、本校の英語教育の改革に役立てる

- 米西版授業改革アプローチ事業

月毎に教科を指定し、その教科の全教員が研究授業を含めたアクティブラーニング(ITC活用も含む)に取り組み、それに合わせて他県の教員を招いての示範授業を行いさらなる手法のブラッシュアップを図る。また、高等学校課事業「講師派遣事業」と連動させ、相乗効果を図る

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 米子西高等学校

重点項目	スポーツ・文化芸術活動重点校	提出日	平成30年2月1日
------	----------------	-----	-----------

1 学校目標
質の高い授業と親身な指導を通して、進路実現に必要な学力をつけるとともに、地域社会の多様なニーズに応え、郷土に貢献する「知、徳、体、志」のバランスのとれた人材を育成する
2 重点項目に係る目標
人間力の向上と地域貢献への意識向上(部活動を通して高い志と目的意識を持ってチャレンジする生徒の育成、地域と連携した活気ある学校づくりの推進) <数値目標> <ul style="list-style-type: none"><li>・中高連携事業の3回の実施と一層の充実</li><li>・文化部総合芸術祭「翠燦く」への全文化部の参加と内容の一層の充実</li><li>・全国高等学校総合文化祭等の全国大会への参加文化部(部門)数が5以上 平成29年度：箏曲部、美術部、放送部、写真部、将棋部門</li><li>・全国高校総体や国体等の全国大会および中国大会への参加運動部(競技)数が20以上 平成29年度全国大会：体操部女子、弓道男子、ボート女子、なぎなた、ボクシング女子、少林寺拳法 平成29年度中国大会：バレーボール部男子・女子、弓道部男子・女子、ハンドボール部男子・女子、テニス部男子・女子、ソフトテニス部男子・女子、剣道部、水泳部、軟式野球部ボート女子</li></ul>
3 事業計画(事業名、事業概要)
<b>【高等学校課事業】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・土曜授業等実施事業 中学生が高校生の指導の下、美術・書道コラボレーションパフォーマンスを行うことにより高度な芸術体験を行う</li><li>・文化芸術活動支援事業 校外の施設を利用した練習および多額の経費がかかる部活動の備品に対する補助を行う</li><li>・文化部活動地域専門指導者招へい事業 地域の専門的知識や技能を持つ方を招へいし指導を受けることにより、伝統文化に触れたり、国際感覚を養ったりする機会等を確保するなど文化芸術活動の振興を図る</li><li>・運動部活動推進事業 地域の専門的指導者の活用を推進し、運動部活動と地域社会との連携を深め、生徒たちの願いに応える形で運動部の活性化を図る</li></ul> <b>【独自事業】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・文化部総合芸術祭 学校外の施設を利用して、本校の文化部の生徒が合同で、日頃の活動の成果を発表する。共通テーマを設け、各々がそれぞれの特性や良さを発揮しつつ融合して新しい芸術を創造し、学校としての内部資源をより積極的に活用し、地域に発信することで地域貢献を行うとともに学校としての特色化を進める</li></ul>

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

鳥取県立米子高等学校

重点項目	アクティブ・ラーニング推進重点校	提出日	平成30年1月31日
------	------------------	-----	------------

1 学校目標																											
<p>○豊かな学力の育成 ・学力の向上 ・思考力、判断力、表現力の更なる向上</p> <p>○豊かな人間性の育成 ・基本的生活習慣の定着 ・生徒の主体的活動の推進（国際交流、環境保全活動、部活動）</p> <p>○地域との連携による学校づくり ・地域のニーズに応じた地域貢献 ・積極的な社会参画と情報発信</p> <p>○自己実現のための進路指導の充実 ・キャリア教育の発展 ・進路指導の充実</p>																											
2 重点項目に係る目標																											
<p>①組織的、計画的にアクティブ・ラーニングで授業改善を推進する</p> <p>②系列の特色化と資格取得を促進する</p> <p>③テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める</p> <p>④ICT機器利活用の推進（活用する教員の推進）</p> <p>〈数値目標〉</p> <p>○実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学合格者数（国公立大学）</td> <td>18(8)</td> <td>26(6)</td> <td>28(9)</td> </tr> <tr> <td>学びの文化祭 inYonago</td> <td>77</td> <td>113</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>各種検定合格率</td> <td>37.3%</td> <td>32.9%</td> <td>46.6%</td> </tr> <tr> <td>テーマ学習アンケート伸長ポイント</td> <td>0.3</td> <td>0.6</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>タブレット活用教員数割合</td> <td>34.2%</td> <td>15.8%</td> <td>34.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>①-1 授業研修参加者 150人 ①-2 大学合格者数 30人</p> <p>②-1 資格取得（ビジネス文書実務検定1級・秘書技能検定2級・簿記実務検定2級・保育技術検定1級）は合格者が受験者の50%</p> <p>②-2 実用英語技能検定2級の受験を促進し合格者を増やす</p> <p>③テーマ学習における生徒の自己評価アンケート項目「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」における評価が、事前から事後で5段階の平均値が0.5ポイント以上伸長する</p> <p>④教員全体の人数に対して、授業でのタブレット端末活用状況 40%</p>				項 目	H27	H28	H29	大学合格者数（国公立大学）	18(8)	26(6)	28(9)	学びの文化祭 inYonago	77	113	77	各種検定合格率	37.3%	32.9%	46.6%	テーマ学習アンケート伸長ポイント	0.3	0.6	0.4	タブレット活用教員数割合	34.2%	15.8%	34.2%
項 目	H27	H28	H29																								
大学合格者数（国公立大学）	18(8)	26(6)	28(9)																								
学びの文化祭 inYonago	77	113	77																								
各種検定合格率	37.3%	32.9%	46.6%																								
テーマ学習アンケート伸長ポイント	0.3	0.6	0.4																								
タブレット活用教員数割合	34.2%	15.8%	34.2%																								
3 事業計画（事業名、事業概要）																											
<p>【高等学校課事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アクティブ・ラーニング推進事業～21世紀型能力を育む次世代授業の創造～「学びの文化祭 in Yonago」→5科目で研究授業を実施し、指導助言とミニ講演会を実施</li> <li>➢ エキスパート教員認定制度→エキスパート教員の研究授業による授業力向上</li> <li>➢ ICT（タブレット端末）活用推進事業→ICT活用による授業改善、デジタル教科書の活用</li> <li>➢ 鳥取県版キャリア教育推進事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ようこそ高校へ」版キャリア塾→卒業生や県内有識者・県外大学教授等による講演会を実施</li> </ul> </li> <li>➢ 外部人財活用事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人講師活用事業→専門家による教科指導を行い、生徒の学習意欲の向上と職業観、勤労観の育成</li> </ul> </li> </ul> <p>【学校独自事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○系列事業             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 英語多読指導</li> <li>➢ 家庭・福祉（施設等実習）</li> <li>➢ 野外活動（ゴルフ・カヌー・乗馬、スキー実習）</li> </ul> </li> <li>○国際交流             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ セント・トーマス・アクワイナス高校交流</li> <li>➢ 韓国造形芸術高校交流</li> </ul> </li> <li>○産社・テーマ             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ テーマ学習の充実</li> <li>➢ 産業社会と人間</li> <li>➢ 学習成果発表会（他校招聘）</li> </ul> </li> <li>○進路指導充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ マナー講習会</li> <li>➢ 看護の職場体験</li> <li>➢ 進路指導資料の充実・進路講演会</li> </ul> </li> <li>○指導力向上             <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 教員研修・大学等訪問</li> <li>➢ コーチングスキル講習会</li> <li>➢ 新テスト対応</li> </ul> </li> </ul>																											

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

鳥取県立米子高等学校

重点項目	地域連携重点校	提出日	平成30年1月31日
------	---------	-----	------------

## 1 学校目標

- 豊かな学力の育成 ・学力の向上 ・思考力、判断力、表現力の更なる向上
- 豊かな人間性の育成 ・基本的生活習慣の定着  
・生徒の主体的活動の推進（国際交流、環境保全活動、部活動）
- 地域との連携による学校づくり ・地域のニーズに応じた地域貢献  
・積極的な社会参画と情報発信
- 自己実現のための進路指導の充実 ・キャリア教育の発展 ・進路指導の充実

## 2 重点項目に係る目標

- ・文化芸術活動の拠点化を通し、地域のニーズに積極的に応える
- ・社会につながる教育活動を推進する

〈数値目標〉

○実績

保護者アンケート結果	H27	H28	H29
米子高校が地域社会に評価（肯定的）	67%	63%	72%

- ・事業計画を確実に実施
- ・保護者アンケート  
→米子高校が地域社会に評価されている（肯定的な意見）70%

## 3 事業計画（事業名、事業概要）

### 【高等学校課事業】

- 未来を拓く学力向上事業
  - ・学校連携チャレンジサポート事業  
演劇スキル向上プロジェクト→芸術創作活動の推進と県内高校生の演劇スキルの向上
  - ・エキスパート教員育成事業→エキスパート教員育成事業による指導力向上と授業改善
- 土曜授業等実施事業
  - ・デッサン講習会→美術系進学対策とスキルアップ
- 文化芸術活動支援事業
  - ・高校生まんが・メディア芸術活動事業 ・高文連まんが専門部活動
  - ・校外・合同練習会支援事業
- キャリア発達支援事業
  - ・介護職員初任者研修→介護職員初任者研修に係る専門的な知識と技術を習得する
  - ・福祉ヘルプメイト資格取得→鳥取県福祉ヘルプメイトを取得し、自己PRにつなげる
- 未来につなぐ高校生活支援事業
  - ・高校生マナーアップ推進事業→規範意識の醸成
- 運動部活動推進事業
  - ・外部指導者派遣→専門的知識と技能の習得

### 【学校独自事業】

- 交流事業 ➤ 地域へのアピール
  - ・ハイホット・ダンスフェスティバル ・吹奏楽部施設訪問
  - ・UTA同好会施設訪問 ・書道パフォーマンス
- 展覧会 ➤ 総合美術展
- 農業交流 ➤ イチゴ栽培・収穫交流
- 中学校連携 ➤ 高校生出前キャリアガイダンス
- 花提供 ➤ 花壇用草花植栽活動

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 米子南高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成30年1月31日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標			
1 「一步前へ」 勇気をもって歩み出し、積極的に主体的に活動する生徒を育成する			
2 主体性を育て、やる気を引き出す「学ぶ意欲」を育てるための授業研究に取り組む			
2 重点項目に係る目標			
1 基礎学力の向上			
2 基本的な生活習慣の確立			
3 職業観、勤労観の醸成			
4 進路目標の自己決定と達成・職業資格の取得			
5 地域社会への貢献			
<数値目標>			
・就職内定率	H28 実績	H29 実績	H30 目標
10月末	98%	92%	95%以上
2月末	98%	100%	100%
・商業科各種検定・・・特記のない検定は、全国商業高等学校協会主催 (受験者数に対する合格率)			
		近年の合格率	目標の合格率
<u>1年生</u>		H28～H29 実績	H30 目標
簿記実務検定2級(ビジネス情報部門)		70%程度	75%以上
情報処理検定2級		90%以上	90%以上
商業経済検定3級		90%以上	90%以上
ビジネス文書検定3級以上(含科目)		90%以上	90%以上
<u>2・3年生</u>			
<全体>	ビジネス文書検定2級(含科目)	90%程度	90%以上
	ビジネス文書検定1級(含科目)	60%程度	70%以上
<分野別>			
マーケティング分野	商業経済検定2級	90%程度	90%以上
	商業経済検定1級	60%程度	70%以上
	日商・販売士3級	60%程度	70%以上
会計分野	簿記実務検定1級(含科目)	30%程度	70%以上
	日商・簿記2級	5%程度	10%以上
情報ビジネス分野	情報処理検定1級(ビジネス情報部門)	40%程度	70%以上
情報システム分野	情報処理検定1級(プログラミング部門)	50%程度	70%以上
	経産省・ITパスポート	30%程度	50%以上

・家庭科各種検定・・・特記のない検定は、全国高等学校家庭科教育振興会主催

(受験者数に対する合格率)

	近年の合格率		目標の合格率
	H28 実績	H29 実績	H30 目標
<u>2年生</u>			
被服製作技術検定(和服)1級	82%	59%	80%以上
<u>3年生</u>			
被服製作技術検定(洋服)1級	100%	82%	80%以上
食物調理技術検定1級	94%	83%	80%以上
保育技術検定2級4種目	83%	—	80%以上
同上 1級4種目	0%	—	80%以上
調理師免許(厚労省)	100%	100%	100%
技術考査	100%	100%	100%
<u>全商</u> ・ビジネス文書実務検定3級以上	66%	59%	75%以上
技術顕彰(検定等上位級2種目以上)	94%	83%	100%

### 3 事業計画(事業名、事業概要)

#### 【高等学校課事業】

#### ○外部人材活用事業

#### 【商業科】

ビジネスマナー(ビジネスマナーの基本、電話の受け方・取り次ぎ方、ビジネスマナー演習)

POP講習(POPの基本、POP作成演習)

接客実習(社会人・社員としての基本マナー、接客の心構え、苦情の対処法、接客の実践)

流通活動の現状(小売業者の役割、小売業者のビジネス、今後の小売業)

地域の現状と課題(地域の現状、地域の課題、地域貢献による活性化)

地域を活性化するマーケティング

#### 【家庭科】

テーブルコーディネート基礎知識の講義・演習

調理師の仕事内容、調理師や社会人としての心構えについての講義

高齢者施設の食事に関する講義・調理実習

外国の食文化・講義及び実習

ビジネスシーンにおける接客接遇の講義・実習

ピンワークに関する講義・実習

福祉産業についての講義とヒューマンサービスについての理解の深化

製菓技術(生菓子、焼き菓子の講義及び実習)

#### ○鳥取県版キャリア教育推進事業

地元企業の人事担当者を招き、社会に求められる企業像や企業に求められる人材像等についての講演

企業で新人研修等を担当しておられる方を招き、あいさつの基本・社会での礼儀作法等についての講話と演習

身だしなみの原則、新社会人、新入生としての適切な服装、スーツの着こなしの講義と演習

## ○土曜授業等実施事業

### ・自己学習を通じたICT教材開発

生徒自身が既習事項をまとめ、自分たちにわかりやすい資料としてのコンテンツ（ICT教材）を作成、ICT教材を拡充し自らの知識理解を充実、大学生（鳥取大学）2名にコンテンツ作成のアドバイスを委嘱、高大連携の一つとして実施

### ・資格取得のための学習会（米子市内の専門学校と連携、講師を依頼し学習会を実施）

## 【学校独自事業】

### 1 授業改革

①学習に必要な読解力の向上（「リーディングスキルテスト」実施、生徒及び教職員への講演、経年比較による必要な対策の検討）

②汎用ソフト操作技術の向上（教材開発研修会、専門高校発表大会・米子市のポスター・学校関連行事のポスター・チラシなどの作品制作）

③ICT活用による学力向上（eラーニング学習、電子的に提出させる家庭学習を課し、電子情報交換サイトを活用して生徒からの質問と教職員から回答）

### 2 人間力向上事業

④地域との交流を通じた人財育成（調理コース成果発表、中心市街地の活性化、幼児とのふれあい交流、命をつなぐ性教育授業）

⑤環境学習推進プロジェクト（地域の環境施設見学、地元小学校との交流、環境教育講演会）

⑥プログラミング出前授業（研修会・出前授業における生徒による指導）

### 3 スペシャリスト養成事業

⑦食の安全専門研修（食品衛生施設見学、食品製造工場見学、大学研究機関での講義実験）

⑧コンテンツ産業を支える人財育成事業（外部講師からの講義・演習、企業のポスター広告やホームページの作成）

### 4 キャリア教育支援事業

⑨進路指導の充実（進路説明会（1・2年生）、職業理解ガイダンス（1年生）、小論文講座（2年生）、進路講演会（2年生）、就職開拓・フォローアップ）、学校・企業見学）

⑩インターンシップ・資格取得の推進（職場体験（インターンシップ）、職場見学、資格取得のための学習会）

### 5 グローカル人財育成推進事業

⑪春川ハンセンム高校との交流（本校の職員と生徒が、春川ハンセンム高校を訪問し、交流活動を実施）

⑫米南地域おこしプロジェクト（地元食材等を活かした商品開発、地元開催イベントでの販売実習・製造メーカーの見学、大都市圏に対応した販売実習）

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 米子工業高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成30年1月30日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標
1 工業高校生らしいエチケット・マナーと心身の健全な育成 2 キャリア教育の充実と学力向上による進路実現 3 ものづくり人材の育成 4 開かれた学校づくり
2 重点項目に係る目標
1 専門的資格取得を奨励し、ジュニアマイスター取得者を増加させる。 ジュニアマイスター顕彰制度： 工業高校の生徒が取得した資格や検定に点数をつけ、その合計点により評価するもの。社会が工業高校生に求める専門的な資格や知識の指標にもなっている。45点以上でジュニアマイスターゴールドが、30点以上でジュニアマイスターシルバーが授与される。本校でも多くの生徒が各科の特性に合わせたさまざまな資格に挑戦している。資格を持った生徒を求人する企業も多く、資格取得は産業界の要請に応えることでもあり、生徒が多くの資格や検定へ挑戦するようその意識を高めるとともに、学校全体で補習の体制を充実させていく。 以下は得点の一例である。 20点 測量士・測量士補、2級普通旋盤加工技能士、施工管理技術検定など 7点 第二種電気工事士、工事担任者(DD種)第三種など 4点 危険物取扱者乙種4類、情報技術検定2級など
2 インターンシップや県内外の企業見学を通して、専門的な技術・技能に触れ、職業観の育成を図り、将来の進路選択に一層明確な目標を持たせる。
3 将来の地域産業を担う人材を育成するため、高校生ものづくりコンテストや各種大会への参加を奨励し、技術・技能の向上を図る。



<数値目標>

- 1 ジュニアマイスター取得者12名以上。

平成29年度ジュニアマイスター取得者12名。

- 2 学校アンケートで以下の集約結果が全体のそれぞれ80%以上。

生徒対象「インターンシップは勉強になったし、充実していた」

平成29年度97.3%

生徒対象「研修旅行は勉強になったし、充実していた」

平成29年度97.3%

保護者対象「本校は、企業見学、研修旅行、インターンシップ等が充実している」

平成29年度98.6%

- 3 学校アンケートで以下の集約結果が全体の80%以上。

生徒対象「自分は実習を通じて、技術・技能が身についた」

平成29年度98.5%

3 事業計画（事業名、事業概要）

【高等学校課事業】

- 1 土曜授業等実施事業

第二種電気工事士の実技試験に向け、県内有識者を招いて実技のポイントを学ぶ。普段は見落としてしまうような部分も、違う見方で細部まで確認することによって、技術の向上につなげる。

- 2 外部人材活用事業（社会人講師活用事業）

環境エネルギー科の活性化のため、外部よりさまざまな部門で有識者を招き、知識や技能の習得を図る。

- (1) 第二種電気工事の実技試験に向けて

社会人講師を招き、第二種電気工事士の実技試験の講習を受ける。外部講師による講義のため生徒の緊張感も増すとともに、細部まで作品を確認してもらえるので技術の向上につながる。

- (2) LEDの応用について

最新のLEDについて広告塔などの活用例や、照射角・消費電力などについて従来品との差に関する講義を受ける。

- (3) 音の制御技術について

自動車内の音響について制御する方法やその原理について学ぶ。

- (4) 地球環境について

現在地球で起こっている環境破壊などについて学習する。

### 3 鳥取県版キャリア教育推進事業

#### (1) 社会人となるための心構え ～3年生～

卒業を控えた3年生に、県外より講師を招き、社会の一員となるための心構え、在学中にすべきことなどの指導を受ける。

#### (2) 先輩に学ぶ ～1年生～

将来の夢や目標がまだ明確になっていない生徒も多い1年生に対し、本校の卒業生が、就職や進学に至った経緯や在学中に考えたことを伝えることによって、将来の進路選択の一助とする。

#### (3) 先輩に学ぶ ～2年生～

就職や進学を控えた2年生に対して、本校の卒業生が、現在の職業や社会人としての生活、学生生活を送るうえで大切なことを伝えることによって、将来の進路選択の一助とする。

### 【独自事業】

#### 1 専門的資格取得の推進

##### (1) 普通旋盤作業と電気工事の資格取得に対する支援

資格を持った生徒を求人する企業も多く、キャリア教育の一環としての資格取得の推進は産業界の要請に応えることでもあり、職業観の育成とあわせて資格取得をサポートしていく。

#### 2 インターンシップ・県内企業研修・県外企業研修の充実

##### (1) インターンシップの充実

2年生全員が各科の特性に沿った企業への就業体験を行い、職業人としての心構えを育成する。また企業現場での実習を通して、企業における専門的な知識や技術・技能に触れる。

##### (2) 企業研修の充実

###### ① 1年生 県内企業研修

地元企業の現場視察を行い、産業界全般に対する認識を深めさせ、将来の進路選択に一層明確な目標を立てさせる。

###### ② 2年生 県外企業研修

関西・東海方面の企業の視察を各科の特性に沿った企業で行い、企業における専門的な知識や技術・技能を見聞し、職業観の育成を図る。

### 3 ものづくり事業の充実

#### (1) 高校生ものづくりコンテスト活動支援

ものづくりコンテストは産業の発展を支える技術・技能水準の向上と若年技術・技能者の育成を目標としている。本校はものづくり人材の育成を学校重点目標のひとつに掲げ、積極的に実習等で取り組んでいる。将来の地域産業を担う人材を育成するため、各部門でのコンテストの上位入賞に向けて、年間を通じて技術・技能の向上を図っていく。

#### (2) 技能オリンピック出場を目指す人財づくり

グローバル人材は世界を目指す環境で磨かれており、ものづくりの優秀な担い手を育成するためにも、最先端を走る企業などを視察し、全国レベルの技術や技能を習得した生徒を育成する。

#### (3) 各種大会・課題研究への支援

本校の生徒は就職先でもものづくりの職種につくことが多い。そこで、ものづくりに興味関心を持つ生徒を育成するため、自ら企画・設計・製作を行う課題研究を行う。その中で、対外的な大会への参加や加工技術の向上につながるような活動を支援し、生徒の学習に取り組む意欲や加工技術の向上を図っていく。

##### ①マイコンカーの製作

マイコンカーを製作し、マイコンカーラリー全国大会への出場を目指す。

##### ②蒸気エンジンの製作

熱力学や流体力学の学習を通し、環境に配慮した蒸気エンジンの製作に取り組む。

##### ③アイデアロボットの製作

与えられた課題をクリアするためのロボット制作を行い、全国高等学校ロボット競技大会へ参加する。

##### ④レスキューロボットの製作

被災地で救助に当たるレスキューロボットを製作し、レスキューロボットコンテスト全国大会に出場する。またレスキューロボット製作に関して、高大連携の一環として、鳥取環境大学と遠隔ミーティングを行って、指導を仰ぎ、技術と技能の向上を図る。

#### (4) 環境エネルギー科充実支援

環境エネルギー科では、さまざまな機会を捉えて自然再生エネルギーの活用を模索・研究している。環境に関連した技術を身につけ、地球環境と調和した継続的な技術発展に寄与する工業人を育成するため以下の事業を行う。

##### ①クリーンエネルギー講座の開催

クリーンエネルギー事業に携わる技術者を講師として招き、社会におけるクリーンエネルギーの役割と自分たちにできることは何かを考える。

##### ②ソーラーラジコンカーの製作

太陽光を利用したソーラーラジコンカーを製作し、全国ソーラーラジコンカーコンテストへの出場を目指す。

##### ③指導力向上に向けた講習会への参加

さまざまな分野で、教職員が新たな技術や資格取得に関する研修を行い、指導力の向上を図ることにより、生徒の知識・技術習得や資格取得を推進していく。

##### ④電気系資格取得の推進

第二種電気工事士の資格取得に向け、学科補習、実技試験の練習を外部人材とタイアップして行う。生徒が資格を取得することにより、キャリアアップへの意欲向上につなげる。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 米子白鳳高等学校

重点項目	特別支援教育重点校	提出日	平成30年1月24日
------	-----------	-----	------------

## 1 学校目標

多様な学習歴やニーズを持つ生徒の学習を支援し、社会で共生する資質と自立の基盤となる能力・態度を育む。

- 1 学ぶ意欲の喚起・育成
- 2 心豊かに他と共生する態度の育成
- 3 社会的自立への支援

## 2 重点項目に係る目標

### 【特別支援教育の充実】

特別支援教育の視点から、学校全体で生徒を育てるという意識を持ち、生徒の情報を共有し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育支援員、白鳳サポーター、関係機関などと連携した手厚い支援体制を組み、困り感を可能な限り軽減して、学習に取り組めるように支援し、不登校を解消することができる。

### 【自己理解の促進】

生徒自身の自己理解を進めるような生徒向け講演会を行い、自己理解を促す。また、1年次の4月当初には、グループワークを行い、春先の人間関係をうまく築けないための不適応を予防するためのクラスの雰囲気作りを行い、「安心できる居場所としてのクラスの仲間作り」を目指す。スクールカウンセラーによる「ストレスマネジメント」や「新入学生徒面談」もを行い、不登校を解消することができる。

### 【連続性のある一貫した支援の充実】

中学校や関係機関と連携し、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しながら、一人一人の個に応じた連続性のある一貫した支援を充実することができる。

### 【個に応じた進路指導】

進路指導主事、キャリアアドバイザーなどの校内支援体制に加え、若者サポートステーションなどの外部機関とも連携して、きめ細かく支援・指導することで、より多くの生徒が個々の適性に合った進路を決定することができる。

### 【通級による指導の導入】

平成29年度に高等学校課より「高校における通級による指導」のモデル校の指定を受け、調査・研究を進めてきた。定時制課程において「自立活動」（自校通級）を平成30年度10月から実施し、対人関係・コミュニケーション等に困難さを感じている生徒は、その困難さを軽減し、克服することができる。

<数値目標>

平成30年度 「自立活動」を教育課程に位置づけて一部実施（定時制課程1・2年次）

平成31年度 「自立活動」を本格実施（定時制課程2・3年次）

### 3 事業計画（事業名、事業概要）

#### 【高等学校課事業】

##### ○高校における特別支援教育充実事業

###### (1) 職員研修会（年3回）

県外大学関係者および専門機関の専門家を講師に実施

- ・ 7月 島根大学教育学部 原 広治教授
- ・ 9月 岡山大学教育学部 吉利 宗久准教授
- ・ 11月 国立特別支援教育研究所 牧野 泰美主任研究員

###### [H29実績]

- ・「QUのクラス別分析と支援検討会」短期大学幼児教育学科長
- ・「高校における相談的かかわりの目標は何か」大学院教育学研究科教授
- ・「通級とは、自立活動とは」教育委員会特別支援教育課指導主事

###### (2) 生徒向け講演会（年1回）

定時制課程生徒対象で県外の専門教職員を講師に実施

- ・対象生徒：定時制課程生徒 講師：松江市立小学校教諭

###### [H29実績]

- ・「生きづらいと感じる世の中の生き残り術」発達障がい当事者会代表

###### (3) 先進校視察（年4回）

長崎県、神奈川県、東京都、青森県の高等学校への視察

- ・県立佐世保中央高等学校（長崎県）
- ・私立星嵯高等学校（神奈川県）
- ・東京都チャレンジスクール2校程度
- ・県立北斗高等学校（青森県）

###### [H29実績]

- ・島根県立邇摩高等学校
- ・東京都教育庁
- ・大阪府立岬高等学校

###### (4) 若者サポートステーション職員来校

定期的な訪問による生徒対象の進路相談や講演会を実施（年間18回）

- ・定時制・通信制水曜日生 月1日 5時間 年間9日
- ・通信制日曜日 月1日 5時間 年間9日

###### [H29 12月実績]

- ・15回実施 297件の相談

#### 【独自事業】

##### ○学ぶ意欲育成事業

- ・白鳳サポーター

島根大学で臨床心理学を専攻する大学院生に定期的に来校してもらい、生徒の学習を個別に支援したり、生徒同士のコミュニケーションが円滑に行われるように支援する。

##### ○豊かな心育成事業

- ・自己理解・他者理解

上記の高等学校課事業「高校における特別支援教育充実事業」で実施

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 境高等学校

重点項目	大学進学重点校	提出日	平成30年2月7日
------	---------	-----	-----------

1 学校目標
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 基本的生活習慣の確立とコミュニケーション力の向上</li><li>・ <u>学ぶ姿勢を確立して目指す進路を実現</u></li><li>・ 部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚</li><li>・ 人としての教育を重視し命の教育を充実</li></ul>
2 重点項目に係る目標
<ul style="list-style-type: none"><li>・ キャリア教育全体計画に基づいた明確な進路目標を設定し、3年間を見通した指導による進路希望の実現を図る。特に、習熟クラス内で2年次より文科系・理科系に分けて丁寧でよりきめ細やかな学習指導を実践する。</li><li>・ 生徒が3年間をとおして進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿を確立する。</li></ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 大学入試センター試験の出願率が70%を上回る。こと。(平成28年度実績 36.5%)</li><li>・ 国公立大学現役進学者数が30名を超える。こと。(平成28年度実績 16名)</li></ul>
3 事業計画 (事業名、事業概要)
<p><b>【高等学校課事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 社会人講師活用事業等 専門家等と協働して深い学びにつながる授業を実施する。(各教科(9教科)年1回) → 国・数・芸・情報の4教科は、独自事業で予算要求</li><li>・ 教育課程の承認(習熟クラスの充実) 1年次英語・数学で少人数クラスを編成する。</li></ul> <p><b>【独自事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>2年次生キャリア研修(上級学校訪問)</u> 2年次生全員。10月実施。近隣の大学・短大・専門学校など、進路希望に応じた上級学校を訪問し理解を深め、進路選択に活かす。</li><li>・ <u>2年次生先輩との交流</u> 7月実施 大学等へ進学したOB・OGを招いて話を聞き、将来の進路を自分ごととして捉える機会とする。</li><li>・ <u>夏季学習会</u> 1・2・3年次習熟クラス生徒+希望者。夏季休業中に実施。1年次生は、境港市民会館等の会場を借り上げ、5日間集中的に学習する。</li><li>・ <u>3年次生土曜日講習(6回程度 英・数・国・理・地公)</u> 3年次を対象に、週時程内の授業では扱えない校外模試の解説等を行い生徒の進路実現を支援する。</li><li>・ <u>総合的な学習の時間の見直し(通年)</u> 平成31年度入学生から探究型の学習を導入する。 あわせてキャリア教育全体計画の見直しを進める。</li></ul>

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 境高等学校

重点項目	スポーツ・文化芸術活動重点校	提出日	平成30年2月7日
------	----------------	-----	-----------

1 学校目標
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 基本的生活習慣の確立とコミュニケーション力の向上</li><li>・ 学ぶ姿勢を確立して目指す進路を実現</li><li>・ <u>部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚</u></li><li>・ 人としての教育を重視し命の教育を充実</li></ul>
2 重点項目に係る目標
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 部活動の充実による特色ある教育の実践し、文武両道の活力があり地域の誇りとなる普通科高校として存在する。</li><li>・ 県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信するとともに、部活動において地域の人材の力を借りたり、生徒が小中学生に学習やスポーツを指導したりすることで地域の信頼を獲得する。</li></ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 全国大会出場者 80 名を超えること。(平成 28 年度実績 51 名)</li><li>・ 全国大会入賞者 5 名を超えること。(平成 28 年度実績 2 名)</li></ul>
3 事業計画 (事業名、事業概要)
<p><b>【高等学校課事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 運動部活動の充実 外部指導者を充実させ、各部の練習内容の質を高め、全国を舞台に活躍できる生徒を育成する。外部指導者の増員</li><li>・ 1 年次スポーツクラスの充実 外部から講師を招き、練習に向かう姿勢、体のつくり方、練習方法等の指導を受け、チーム境高として全国大会で戦う集団を育成する。→H30 年度は運営費で対応、成果を見て H31 年度以降は独自事業として予算要求。</li></ul> <p><b>【独自事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ <u>地域・全国へのPR活動</u> 中学生向けのパンフレット (カラー16 ページ : 600 部) を作成。内容は、高校時代にスポーツ等で活躍した卒業生からのメッセージとし、今の仕事、境高の良さをPRしてもらう。また、県外から受検生を獲得するため、スポーツ (硬式野球部・陸上・ヨット・ハンドボール・サッカー) 紹介のビデオを作成し、ホームページに掲載。(外部委託)</li><li>・ <u>小学生との交流事業 (境高スクールプロジェクト)</u> 上道小学校と境小学校 5・6 年生を対象とし、9 月～12 月の間に 6 回程度実施する。大学生の協力を得て、高校生が学習の支援及びスポーツ・創作活動・外国語・集団遊び等の指導をとおして小学生と交流する。(H18 年度から実施)</li></ul>



# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 境港総合技術高等学校

重点項目	専門人材育成重点校	提出日	平成29年2月13日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標	
<p>(1) 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる。</p> <p>(2) 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する。</p> <p>(3) 自然に親しみ、地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけた新しい21世紀の世界を切り開く人材を育成する。</p>	
2 重点項目に係る目標	
○専門的知識や技能を身につけ、イノベーションに柔軟に対応でき、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。	
海洋科	・船舶や漁業の魅力を実習や体験をとおして理解させ、船舶・漁業関係の就職者数を増加させる。
食品・ビジネス科	・地元の基幹産業である水産業を支える人材を数多く育成し、地元就職者を増加させる。
機械科	・多くの機械実習を通して、ものづくりのすぐれた技術を習得させ、機械・自動車関連企業への就職者を増加させる。
電気電子科	・国家資格である電気工事士の資格取得者を増加させ、資格を活かした電気電子関連企業への就職者を増加させる。
福祉科	<p>・即戦力となる介護福祉士となるため、国家試験の合格を目指すとともに、福祉関連産業への就職者を増加させる。</p> <p>・地域のこども福祉を支える人材を育成し、豊かな心を持ち地域貢献できる人材を育成する。</p>
<p>&lt;数値目標&gt;</p> <p><b>【全体】</b></p> <p>(1) 各学科の専門に関連した企業に就職する割合75%以上(平成29年度71.7%、平成28年度70.2%)</p> <p>(2) 各学科の専門に関連した上級学校に進学する割合70%以上(平成29年度63.5%、平成28年度67.2%)</p> <p>(3) 各学科の専門の資格を二つ以上取得する割合80%以上(平成29年度76.2%、平成28年度74.7%)</p> <p><b>【各科】</b></p>	
海洋科	・船舶・漁業関係に50%以上就職する。(平成29年度53.6%、平成28年度40.7%)
食品・ビジネス科	・就職希望者の80%以上が食品・ビジネス科で学んだことを活かし、

	食品及びビジネス関係へ就職する。(平成29年度70%、平成28年度80.8%)
機械科	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車整備士試験3級に90%以上合格(自動車類型)(平成29年度70.6%、平成28年度44.4%)、基礎製図検定に60%以上合格(自動車類型、機械類系)させる。(平成29年度67.6%、平成28年度31.6%)</li> <li>機械・自動車関連企業に70%以上就職する。(平成29年度65.5%、平成28年度72%)</li> </ul>
電気電子科	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気工事の国家試験に50%以上合格(平成29年度53.6%、平成28年度24.4%)させ、電気電子関連企業に50%以上就職する。(平成29年度33.3%、平成28年度40.9%)</li> </ul>
福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>(介護類型)介護福祉士国家試験100%合格(平成29年度100%、平成28年度100%)</li> <li>(子ども福祉・ボランティア類型)保育検定3級4種目100%合格(平成29年度76.9%)</li> <li>(両類型)介護職員初任者研修100%(平成28年度90.6%)、福祉ヘルプメイト80%以上(平成28年度68.4%)の資格取得に取り組み、福祉関連企業に就職希望者の60%以上就職する。(平成29年度53.3%、平成28年度62.5%)</li> </ul>

### 3 事業計画(事業名、事業概要)

#### 【高等学校課事業】

県版 SPH 事業 地域とつながる水産教育	海洋科、 食品・ビ ジネス科	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖合漁業体験、沿岸漁業体験、養殖漁業を学ぶ、地元水産物を学ぶ等の事業を実施。</li> <li>地元水産物をより美味しく食べる方法、食のみやこ鳥取県のうまさを売り込め等の事業を実施。</li> </ul>
県版 SPH 事業 学科間連携	全科	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科の取組を科連携を通して、総合技術フェアで展示発表。</li> </ul>
県版 SPH 事業 マイコンカーの設計・製作・ラリー体験	機械科	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイコンカーの設計、製作を通してものづくり技術力の向上を図る。</li> </ul>
県版 SPH 事業 福祉工学の研究	機械科	<ul style="list-style-type: none"> <li>養護学校児童・生徒のニーズに合致した作品を制作。</li> </ul>
県版 SPH 事業 公的施設の電気機器レスキュー隊	電気電子科	<ul style="list-style-type: none"> <li>公的施設の電気機器コンセントの点検や清掃、配線のチェックなどを実施。</li> </ul>
県版 SPH 事業 高校生出前授業	電気電子科、 福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子電気科は中学校での「電気工事教室」、福祉科は公民館と連携し「夏休みこども講座」を実施し、専門教育を通して豊かな人間性を育成する。</li> </ul>
県版 SPH 事業	福祉科	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉の学習を通して学んだことを地域に還元</li> </ul>

なかよしフェスティバル		し、様々な世代・立場の方々とのふれあいを通してコミュニケーション能力を育成する。
土曜授業等実施事業	全科	・中野港漁村市、まぐろ感謝祭、販売実習シーサ、地域の子ども、福祉にかかわるイベント等に参加する。
社会人講師活用事業	全科	・各専門家を招聘し、講義、技術指導を実施。
介護職員初任者研修社会人講師活用事業	福祉科	・介護総合事例演習・事例検討に係る講義、技術指導等を実施。
介護福祉士養成研修社会人講師活用事業	福祉科	・介護福祉士養成のための医療的ケア授業の実施、介護技術向上のための研修、介護実習報告会への指導助言、介護福祉士のキャリアアップにかかわる講演等を実施。

【独自事業】

オーストラリア国際交流	海洋科	・海洋練習船「若鳥丸」による遠洋航海実習の一環として、オーストラリアのケアンズ港に入港した際に、TAFEカレッジとグレートバリアリーフインターナショナルマリンカレッジで地元生徒と交流を行う。
最新の製造技術を学ぶ	食品・ビジネス科	・最新の製造技術を学び、非常食、介護食等のレトルト食品実用化を図る。
地元企業に学ぶ	機械科、電気電子科	・身近な地元企業を知ること、早期に進路意識を芽生えさせ、学習意欲を喚起する。
熟練技術の技能講習	機械科	・機械科実習の熟練技術を持っている匠・プロからもものづくりを伝授。
相撲ロボットの製作	機械科	・加工技術を総合的に駆使して、ロボットを製作し、技術を習得する。
「介護福祉士」国家試験合格に向けた取組	福祉科	・皆生養護学校での講義、児童生徒との交流をとおして介護福祉への理解を深める。 ・筆記試験対策学習の強化を図る。
ネットワーク会議	海洋科、食品・ビジネス科、機械科、電気電子科	・専門学科と深く関わる企業から委員を委嘱し、年2回、学校の教育プログラム、最新技術等の助言をいただく中で、産業社会の情勢に迅速に対応した教育内容の改善を図る。

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 日野高等学校

重点項目	キャリア教育重点校	提出日	平成30年1月31日
------	-----------	-----	------------

1 学校目標
社会の中でたくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を図る
2 重点項目に係る目標
<p>&lt;キャリア教育の全体目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を認識し、解決の方策を考え、行動する力を身につけさせる</li> <li>・人と関わる力、自分の感情・行動をコントロールする力を身につけさせる</li> <li>・地域社会に参加・貢献し、自分の将来を設計し進路を決定する力を身につけさせる</li> </ul> <p>&lt;育成すべき能力・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決能力</li> <li>・人間関係形成・社会形成能力</li> <li>・自己理解・自己管理能力</li> <li>・キャリアプランニング能力</li> </ul> <p>&lt;各年次の重点目標&gt;</p> <p>(1年次生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己や産業社会について理解を深め、勤労観職業観を育成する。</li> </ul> <p>(2年次生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理能力を高め、将来設計を立案する。</li> </ul> <p>(3年次生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現のための課題を認識・実行し、進路を決定する。</li> </ul> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情や自己有用感に関する学校評価アンケートの項目に、肯定的な回答をする生徒が、平成30年度には45%以上、平成31年度には60%以上（平成29年度32%）。</li> <li>・「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒が、平成30年度には80%以上、平成31年度には85%以上（平成29年度76%）。</li> <li>・本校の進路指導に肯定的な回答をする生徒が、平成30年度には70%以上、平成31年度には80%以上（平成29年度64%）。</li> </ul>
3 事業計画（事業名、事業概要）
<p><b>【高等学校課事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県版キャリア教育推進事業「ようこそ高校へ」版キャリア塾</li> </ul> <p>(1年次生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路意識の高揚と進路目標の明確化」をテーマに講演会を実施</li> </ul> <p>(2年次生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「職場体験の心構え」をテーマに講演会を実施</li> </ul> <p>(3年次生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会人としての心構えとマナー」をテーマに講演会を実施</li> <li>・先輩に学ぶ（卒業生を招聘し、体験談等を聞く）</li> </ul> <p><b>【学校独自事業】</b></p> <p>(1年次生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと日南邑人間力アップ！合宿 人間力をアップするための宿泊訓練合宿</li> <li>・オッシー・ドリーRUN・ラン・らん事業 鵜の池マラソン参加</li> </ul>

・地域連携キャリア形成事業

「産業社会と人間」における各種事業

※「人間関係形成能力・社会形成者意識」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成を図る学習活動。

- ①オリエンテーション <学校を知る>
- ②系列プレゼンテーション <学習への動機付け>
- ③農業・商業・福祉科目体験 <系列選択に向けた動機付け>
- ④フォトオリエンテーリング <地域を知る>
- ⑤上級学校見学 <進路意識の育成>
- ⑥フィールドワーク（事業所等訪問、聞き取り調査）  
※県内有識者による指導・助言（2時間2人（2回））  
<聞く力、メモをする力、まとめる力、発表力の育成>
- ⑦ワークショップ（分掌表現、自己表現、マナー）  
※県内有識者による指導・助言（2時間2人（2回））  
<コミュニケーション能力の育成>
- ⑧社会人講話（ポスターセッション）  
※外部人材活用事業（高等学校課事業）を活用  
<職業観・勤労観等の育成>
- ⑨県内大学教員（アドバイザー）による教育計画・実施・評価に係る指導・助言  
（2時間1人（6回））

・大学等訪問～三意一体カイカク～  
大学、短大等の上級学校の視察

（2年次生）

- ・職場体験学習  
地域の事業所を中心とした4日間の職場体験
- ・大学等訪問～三意一体カイカク～  
大学、短大等の上級学校の視察
- ・花を通じた地域交流  
地域を花で飾る交流活動

（3年次生）

- ・地域連携キャリア形成事業  
「課題研究」における各種事業  
※生徒一人ひとりが主体的に課題を設定し、課題解決のために調査・研究・まとめを実践的に行い、問題解決能力の育成を図る学習活動。
  - ①テーマ設定
  - ②調査・研究・まとめ
  - ③発表
- ・出会い！発見！農業チャレンジャー事業  
先進的な農業関連事業所の見学等
- ・日野高版デュアルシステム  
インターンシップによる実習代替
- ・花を通じた地域交流  
地域を花で飾る交流活動

（全年次生）

- ・学びの成果発表会  
学習成果発表会を実施（「産業社会と人間」「職場体験学習」「課題研究」など）

【その他】

- ・事業所説明会  
日野郡内事業所による説明会

# 県立高等学校重点校制度に係る事業計画書

学校名 日野高等学校

重点項目	地域連携重点校	提出日	平成30年1月31日
------	---------	-----	------------

## 1 学校目標

社会の中でたくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を図る

## 2 重点項目に係る目標

・主にキャリア教育において、地域の資源を活用して、教育活動の発展・充実を図り、学校の特色化・魅力化を推進するとともに、地域の活力を高めることに貢献する。

<キャリア教育の全体目標>

- ・課題を認識し、解決の方策を考え、行動する力を身につけさせる
- ・人と関わる力、自分の感情・行動をコントロールする力を身につけさせる
- ・地域社会に参加・貢献し、自分の将来を設計し進路を決定する力を身につけさせる

<育成すべき能力・態度>

- ・課題解決能力
- ・人間関係形成・社会形成能力
- ・自己理解・自己管理能力
- ・キャリアプランニング能力

<各年次の重点目標>

(1年次生)

- ・自己や産業社会について理解を深め、勤労観職業観を育成する。

(2年次生)

- ・自己管理能力を高め、将来設計を立案する。

(3年次生)

- ・進路実現のための課題を認識・実行し、進路を決定する。

<数値目標>

- ・「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒が平成30年度には70%以上、平成31年度には80%以上(平成29年度69%)。
- ・職場体験学習実施後のアンケートで、生徒の態度に係る6つのアンケート項目において、平成30年度以降全て平均値が4.5(5段階)を上回る。
- ・学びの成果発表会に来場する教育活動に関係した地域の方が、平成30年度以降20人以上。
- ・日野郡内における職場体験学習の実施率が85%以上。
- ・「課題研究」におけるテーマにおいて、地域資源との関連があるテーマが100%。

## 3 事業計画(事業名、事業概要)

### 【高等学校課事業】

- ・外部人財活用事業(社会人講師活用事業)
  - (1年次生)
    - ・「産業社会と人間」における「キャリアプランニング能力」等の育成を図る学習活動
  - 社会人講演(ポスターセッション)
- ・鳥取県版キャリア教育推進事業「ようこそ高校へ」版キャリア塾
  - (1年次生)
    - ・「進路意識の高揚と進路目標の明確化」をテーマに講演会を実施
  - (2年次生)
    - ・「職場体験の心構え」をテーマに講演会を実施
  - (3年次生)
    - ・「社会人としての心構えとマナー」をテーマに講演会を実施
    - ・先輩に学ぶ(卒業生を招聘し、体験談等を聞く)

・県立学校土曜授業等実施事業

(2年次生・3年次生)

日野高ショップ(6月から12月までの土曜日に5回、日野郡内の商業施設等において、本校実習生産品や生徒が仕入れた商品を販売)

【学校独自事業】

(1年次生)

- ・地域連携キャリア教育形成事業  
「産業社会と人間」におけるフィールドワーク

(2年次生)

- ・職場体験学習  
地域の事業所を中心とした4日間の職場体験

(3年次生)

- ・出会い!発見!農業チャレンジャー事業  
先進的な農業関連事業所の見学等
- ・日野高版デュアルシステム  
インターンシップによる実習代替
- ・地域連携キャリア教育形成事業  
「課題研究」における地域での教育活動

(2年次生・3年次生)

- ・地域食材を活かした魅力創造プロジェクト  
地域食材を活用した商品開発、販売
- ・地域リーダー人材育成事業  
和歌山大学生と共に地域産業等を調査し、報告会を開催
- ・地域と繋がる芸術事業  
地域の小中学生と合同で行う音楽講座、演奏会
- ・飛び出せ日野高プロジェクト  
鳥取県・岡山県協同アンテナショップ「とっとりおかやま新橋館」で本校生徒の生産加工品や日野郡各種特産品の販売実習、マーケティング調査
- ・花を通じた地域交流  
地域を花で飾る交流活動
- ・農場における地域交流活動  
鏡陵大学(地域の人を対象に野菜栽培、食品加工等の交流活動)  
福祉そば打ち・福祉餅つき(地域のボランティアとそば打ちや餅つきをし、生徒が地域の老人福祉施設や独居老人宅に配布)  
ちびっ子農業体(黒坂小学校の児童との田植え、芋掘り等の農業体験)

(全年次生)

- ・福祉マインド育成プロジェクト  
生徒が地域の小学生と交流し、介護技術を教える  
保育園、高齢者施設等での訪問演奏会